



第 92 号

公益財団法人 黒田奨学会

「東京オリンピック」そして 第18回全国藩校サミット壬生大会

総 裁 黒田 長高



令和3年もコロナ禍の中に明けたが、感染者数も少し落ち着いたと思っても収まらず、様々なイベントが中止になっている。そのような中でも東京オリンピックは開催された。これについては賛否両論であるが、私は丁度、以前より決まっていた手術のための10日間の入院があり、妻から借りて自宅から持参したiPadやTVで十分に楽しむことができた。特にインターネットで、TVで放送しないほぼ全種目の競技を見ることができたので、入院中でもなければこんなに視聴して楽しむこともできなかっただろう。手術についても痛みを感じることもなく麻酔が覚めてからは動くこともできたのでiPadがありがたかった。また偶然にも入院中に血液採取に来た研修医に黒田奨学会の卒業生の方がおり、声をかけられてびっくりした。

東京オリンピックで私が特に興味深かったのが新種目の「サーフィン」「スケートボード」「空手」である。特に「スケートボード」については年齢層の幅が広く、小学生からおじさんまでという幅の広さで、それだけ楽しいということなのだろう。そして上位を占めるのは高校生以下というから驚きであった。

「馬術」についてはTVの放送は皆無であったが、インターネットのおかげで見ることができた。但し音声などは無しである。日本人選手は今回は意外と頑張っていたのに話題にもならなかったのは残念である。冬季も含めた新しい種目の中で、「サーフィン」「スケートボード」「スノーボード」などは海外でかなりの賞金が掛かった大会もあるので選手たちはそれを目指し、大変な努力をしていることと思う。何しろこのようなスポーツをやってプロになり成功すれば、米国で豪邸も買えるようになるかもしれないのだから、夢があり、やっている本人たちも楽しいことと思う。そこには汗と涙にまみれた苦しい練習ばかりの青春というよりも、楽しみながら練習をしているように思えるが、実際は大変な努力をしているに違いない。

さて、東京オリンピックも終わり、私も順調に退院したが、コロナの感染者数については相変わらずのようだ。春ごろに関ヶ原町より10月21日に「関が原古戦場記念館」開館1周年記念のイベントを行いたいののでぜひ出席してほしいとのことだったのだが、9月初旬に中止の連絡が来た。残念ではあるがこのコロナ禍の中では致し方ないことである。私ももし開催されるようでも遠慮しようかと思っていた。

また毎年恒例の「第18回全国藩校サミット壬生大会」の案内も来ていたが、こちらのほうは欠席の返事をしたところであった。東京から割と近い栃木県の壬生町というところでの開催予定であり、場所的に近いので今回は車で参加してみようと考えていたが、欠席の返事をしてしまった。そこへ藩校サミットの福岡藩担当の修猷館出身の方から熱心なお誘いが続き、迷いも生じてきた。また、その時点では新型コロナ感染者の数が著しい減少を始めており、これなら大丈夫かなという思いから妻と二人で参加することにした。前述の福岡藩担当の人の話では、残念ながら福岡藩旧家臣関連の団体である藤香会からは高齢者の方も多いために出席者は少ないようだが、秋月の黒田家のご当主黒田長幹氏は出席されるとのことである。しかし、秋月の方もいつもは元気に参加されているが、今回はやはりコロナ禍の為少ないらしい。だが秋月の隣の高鍋藩からの出席があるそうである。今回の壬生という街自体私はあまりよく知らないが鳥居家が藩主とのことである。

事前に送られてきた当日のスケジュールなどを見ると、会場は藩主会議、サミット会場、交流会とそれぞれ別の場所となっており、参加者の移動はシャトルバスを走らせ大変なようだが、主催者がうまくやってくれると信じるしかない。藩主会議と宿泊については獨協医科大学の施設を利用することになっている。この獨協医科大学はなんとホテルまであり、運営しているのには少し驚いた。

さてスケジュール最初の藩主会議に出席するが、今回はコロナ禍のせいか若干少ないようである。藩主といっても今の時代には想像できない江戸時代の各藩の「殿様」を継承・代表する当主の方達である。そしてそのトップは江戸幕府の徳川家で、ご当主の方が参加されている。会議とはいっても各藩の簡単な自己紹介のみである。そうしないと時間がいくらあっても足りなくなるのではないかなと思えるので当然かもしれない。

藩主会議が終了すると、シャトルバスによりサミット会場である城址公園へ向かう。そこではシャトルバスを下車すると地元の女子中学生や幼稚園児？が各藩のプラカードや家紋の入った小旗を掲げて出迎えてくれ、会場の大ホール内へ案内してくれた。なかなか可愛らしい出迎えである。



着席するとしばらくして大会が開始され、主催者、来賓等のあいさつから始まって旧藩主紹介となるが、ここでは参加している旧藩主全員が並んで壇上に上がる。今回は参加した29藩が壇上で一列に並び着席する。そして一人ずつ起立して紹介され、江戸幕府の徳川家広氏があいさつをするが、さすがにこういうことは慣れているようで、実に巧妙にすらすらと話していた。



そして熊本大学の稲葉教授による記念講演「鳥居元忠の活躍と壬生」となるが、内容は知らなかったことばかりであった。鳥居元忠が徳川家康の直臣大名であったことはうっすらと知っていたが、どのような経緯で家康に仕えていたかは全く知らなかった。元忠の父忠吉は、家康の祖父が岡崎城に入った頃から家康に奉公し、子元忠が幼少のころから家康に近侍していたとのことである。そして信長が家康と手を結び武田勢に対していたころ、元忠の存在が表に出てくる家康からの文書があるそうで、それは長篠・設楽原の合戦の二日前に家康が元忠・石川数正にあてた書状で、家康が元忠と軍議をし、家康家臣団の中心にいたことが分かるとのことである。その後の関ヶ原合戦前、家康の上方出陣後には秀吉方が任命した伏見城留守居役を追い出し、元忠らが籠城したが、結局石田方に攻められ討ち死

にした。伏見城は秀吉の隠居地であり臨終の地でもあるので石田方が攻めるのも当然で、これにより家康の敵が誰であるかを確定させたようなものだろう。

壬生町は鳥居家の六代の忠英が近江国水口より転封になって三万石の藩主となった地で、廃藩置県まで鳥居家が教育などに力を注いでいたようだ。

会場では記念講演に続き、子供文化活動というプログラムとなるが、最初はなんと壬生寺保育園児による「円仁太鼓」で、壇上に子供たちがぞろぞろ出てきて太鼓もセットされた。いったいどんなものだろうと思っていたら驚いた。子供たちは乱れずに太鼓を一生懸命力強く叩いている。人数が多く保育園児というのでたいしたことはないだろうと思ったら、実にリズミカルに乱れることなく演奏している。これには客席の皆さんも感動したのではないだろうか。演奏が終わると客席から大きな拍手がたくさん聞かれた。子供といっても小学生、中学生ではなく保育園児というので保育士の方たちも大変だったと思う。



続いては町内の小中学生による論語の朗読などだが、今の時代に論語を大切にし、子供たちに教えていること自体が珍しいのではないだろうか。藩校サミットの別の会場の時も子供たちの論語の朗読などを聞いたことがあるが、各藩校の教育自体に論語が入っており、藩校教育の核となっていたのではないかと思う。そして各藩で論語を学び文武両道の人づくりを目指していたことが想像できる。私の小学生時代はこのような論語などの教育は全くなかったように思う。果たして現代のIT化などに向かっている教育には採用されているところも少ないのではないかと思うが、それが良いのか悪いのかはわからない。この藩校サミットは一般社団法人「漢字文化振興協会」という団体が主催し、各地の藩校の教育などを知り、現在の日本の漢字文化を再確認しようというのが目的であると聞いているが、今回の壬生町では「論語」が壬生論語として、藩校であった「学習館」を前身とする壬生小学校から広まったそうである。

さて会場は鳥居家16代当主を交えたディスカッションが行われ、壬生宣言の発表、次期開催地は福山との発表があり、閉会へと向かう。

サミットの行事が終了すると、今度は出席者の皆さんが楽しみにしている交流会場の小山グランドホテルへシャトルバスで向かう。このときもバスに乗車するまで地元の人たちの温かい見送りがあった。交流会はコロナ禍もあるので控えめには言いながら、出席者同士の交流を楽しみ、次回開催地「福山」での再会を誓い合って閉会となった。

さて交流会が終了すると今度は二次会である。これは前述の福岡藩担当の方が事前にセットしてくれていたのので有難く参加することにした。今回は秋月黒田家の長幹氏は参加していただけたが、秋陽会等他の方は残念ながら欠席となっている。しかし秋月の隣藩の高鍋藩関係の方が同席し、感染に気を使いながらも歓談を楽しんだ。

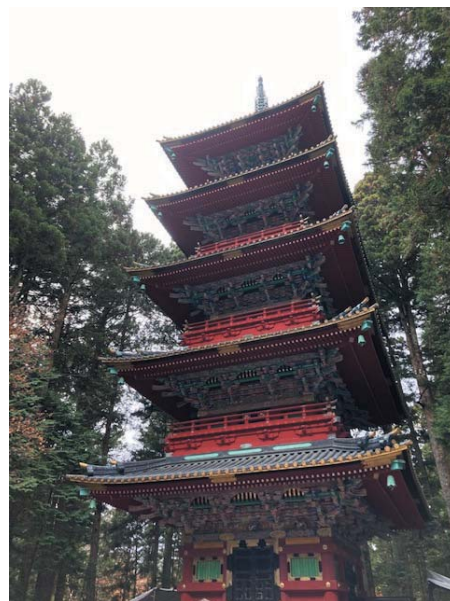
翌日はエクスカッションであるが、私たちは自家用車なのでバスを追いかけていくことにした。最初の目的地は足利学校である。足利学校を見学するのは初めてであるので興味はあった。ずいぶん前

に倉敷市の閑谷学校というところに行ったことはあるが、閑谷学校は江戸時代にできた庶民の為の世界最古の現存する公立学校であったと聞いている。足利学校の入り口にはわざわざ市長自ら出迎えていただき、皆さんに挨拶して頂いた。



足利学校は560年前というから、さらに古く、漢文を中心とした中国の学問を教えていたという。その中で中心となっていたのが「論語」で中国学の原点となっているとのことである。この時代は学問といえばやはり中国からのものが中心であったようである。足利学校の論語抄をばらばらとめくると、昨日のサミットで子供たちが一生懸命覚えていたようなものがたくさん書かれている。内容を見ると私たちの人生の参考になるようなものも多いようだ。足利学校はその建物も日本遺産に認定された史跡できれいな佇まいである。

足利学校を出て昼食後の次は日光へ向かい、東照宮参拝となっているが、社務所では神職の方々が出迎えて頂き、いつもは見られない五重塔へも案内していただき、黒田長政が建立奉納した重要文化財「一の鳥居」を確認する。残念ながら時間の関係もあり、観光はここまでで、社務所で休憩してエキスカージョンは終了となり解散となる。私たちは一行のバスとは別れ、そのまま車で東京へ向かい、第18回藩校サミット紀行は終了した。さて次回の第19回藩校サミット福山大会が開催される頃は感染が収束するとは思えないがどうなっているのだろうか、うまく開催できることを祈っている。



目 次

巻頭言 「東京オリンピック」そして

第18回全国藩校サミット壬生大会

総 裁 黒田 長高

修了および卒業に際しての謝辞

修士課程修了生より 1

学士課程卒業および修士課程入学生より 2

入学のよろこび 11

トピックス

黒田長高総裁と絢子様が奨学会事務局を訪問されました 21

創業セミナーが開催されました 21

小幡ナシム氏、IEEE より受賞！ 22

東大修士課程2年の稲富翔伍氏が論文賞を受賞！ 22

九大修士課程1年の高岡祐太氏が発表賞とポスター賞を受賞！ ... 23

黒田家第14代御当主の黒田長禮様の懐古写真です！ 23

黒田奨学会のホームページがリニューアルされました！ 23

行事報告

令和3年度 奨学生卒業記念式 24

令和4年度 奨学生入学式 26

令和3年度 関東地区研修会 28

近況報告

令和3年3月京都大学大学院修了・田中龍一氏から
近況報告が送られてきました 31

フィンランドに留学中の藤井かのん奨学生 近況報告 32

公益財団法人黒田奨学会に対する寄付御礼および重ねてのお願い ... 33

令和3年度奨学会基金への寄贈者 33

令和4年度 黒田奨学会行事予定 34

編集後記 35

黒田奨学会研修会・発表抄録集 36

修了および卒業に際しての謝辞

【修士課程修了生より】



東京大学大学院工学系研究科・修士課程修了 佐藤 尚弥

この度、東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻を卒業いたしました、佐藤尚弥と申します。黒田奨学会の皆様におかれましては、学士課程と修士課程の計6年間に亘ってご指導ならびにご支援をいただいたこと、心より感謝申し上げます。

奨学生としての6年間では、毎年の研修会が最も印象に残っています。特に、異なる専門分野の方々に対して、自身が勉強や研究をした内容を如何に理解してもらえるように説明するかという工夫の経験は自身の研究活動において非常に役に立つものでした。同時に、様々な専門分野と考えを持った方々の発表を聞くことは、自身の専門性を活かした社会貢献について考えを深める貴重な機会になり、職業選択において大いに参考となりました。また、修士課程の2年間では新型コロナウイルス感染症の蔓延によって不安な日々を過ごしていましたが、奨学会には経済的のみならず心理的なサポートもしていただき、非常に心強かったことを記憶しています。

4月からは有限責任監査法人トーマツのデータ分析部門であるDeloitte Analyticsに就職いたします。就職後は、企業や自治体のデジタルトランスフォーメーションやデータ分析活用の支援業務を行う予定です。企業や行政の情報技術の活用の遅れが社会的に広く問題視されている状況に対して、学業や研究活動で培った専門知識と、奨学会の研修会や共同研究で得たコミュニケーションの経験を活かして当事者と共に解決策を講じることで、微力ながら社会貢献ができるよう今後とも一層努力していきたいと考えています。

末筆ではございますが、黒田奨学会の今後益々のご発展、ならびに皆様のご多幸をお祈り申し上げます。6年間、本当にありがとうございました。

九州大学総合理工学府・先端エネルギー理工学専攻・修士課程修了 原口 義基

この度、九州大学総合理工学府先端エネルギー理工学専攻を修了いたしました。この6年間、勉学・研究活動に打ち込み、学生生活を充実させることができたのは、ひとえに奨学会の皆様の多大なご支援、そして温かいご指導のおかげです。黒田奨学会の皆様、並びに研修会等でお互いに刺激し合った先輩・同輩・後輩の奨学生の皆様に心から感謝申し上げます。

6年前の奨学生の採用面接において、非常に緊張しながらプレゼンに臨んだこと、今でも鮮明に覚えています。当時は『新エネルギーに関する研究がしたい』、と漠然とした考えしか持っていませんでした。その後の質疑応答では具体的な回答がまるで出来ず、自分の知識不足・考えの浅さを痛感しました。それにも関わらず奨学生として採用していただき、本当にありがとうございました。

研修会を通じて、自分が発表する、他の奨学生の発表を聞く、という機会を複数回いただけたことが大きな財産になりました。今だから言えることですが、採用面接での失敗が軽いトラウマになっていたため、1年目は研修会にあまり気が進みませんでした。しかし、その失敗があったことが自分の成長につながったと感じています。発表資料とその説明をどのように工夫すれば、10分間という短い時間の中で、専門外の人にも内容を理解してもらうことが出来るのか、加えて質疑応答対策など、それまで以上に発表準備に時間をかけるようになりました。また何度も場数を踏むことで、発表前に過度に緊張することもなくなり、質疑応答にも冷静に臨めるようになりました。社会に出れば、プレゼンの機会はさらに増えると思います。実際に社会に出ていく前に場数を踏み、腕を磨く機会を何度もい

ただけたこと、心よりお礼申し上げます。

4月からは、九州電力株式会社の一員として働くことになりました。電力の安定供給を一日も欠かさず実現し、九州の人々の快適な毎日、そして産業の発展を支えていく所存です。黒田奨学会の卒業生として恥ずかしくないよう、そして皆様から頂いたご恩を少しでもお返しできるよう、日々精進して参ります。

末筆ながら、黒田奨学会の益々のご発展、そして皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。6年間にわたってご支援・ご指導いただき、本当にありがとうございました。

九州大学大学院・システム情報科学府・修士課程修了 小幡 ナシム

九州大学に3年次編入し、大学院への進学を経て4年間の大学生活を無事に終えることができました。この4年間で勉学および研究に集中し、有意義なものとしたのはひとえに黒田長高様、そして黒田奨学会に携わるすべての人々のご支援のおかげであり、感謝の念に堪えません。

大学では編入の目的であった「より多くの技術・知識の修得」を達成することができました。研究を遂行するための計画立案能力や様々な場での議論による理論的な思考力に加えて、研究を表現するためのプレゼン能力が非常に高い水準で身に付いたと感じています。これは研究を通してだけでなく、奨学会の研修での経験も活きていると強く思います。専門性の高い内容をいかに他者に伝えるかを考えるだけでなく、実践できる舞台として研修会は有意義なものでありました。大学での学会活動を通して発表だけでなく、科学論文の執筆まで達成できたことはその経験がもたらした結果だと考えています。加えて、研修会、面談による精神的な支援と奨学金としての経済的な支援のおかげで、大学生活において自身を大きく成長させることができたと感じています。奨学会の一員となってからは、報告書や面談などを通じて「社会に貢献する」ことを意識する機会が多くありました。そのことは私自身の大学生活における行動の軸となって、どの講義を選択すれば良いか、どのように研究に取り組めば良いかなど、将来への見通しを具体的に持ちながら道を選択することが出来ました。

来年度からは社会に出て、電子部品、特にコネクタの設計を行うエンジニアとして働きます。昨今の電気自動車の実用化やIoTの浸透によってコネクタの需要は莫大なものとなっており、その設計は非常に重要な仕事であると認識しています。だからこそ、これまでの経験を活かした電気電子工学系学生ならではの多角的な視野での貢献をしていきたいと考えています。特に、奨学生として研究生生活で培った新たな価値を創造する力や分析力、表現力によって業界に革新をもたらすことができるようなエンジニアになるために一生懸命に取り組んでいく所存です。

今後も、奨学会への感謝を忘れず、瑞藤会の一員であることを自覚し、どのように社会へ貢献するかを考えながら、自分にできることを精一杯やりきろうと思います。4年間のご支援、誠にありがとうございました。

【学士課程卒業および修士課程入学生より】

九州大学医学部医学科・卒業 前田 優華

思い返せば、黒田奨学会の奨学生として過ごした6年間はあっという間でした。それまでに味わったことがないほどの緊張感の中で参加した入学式、その場での黒田長高総裁や先生方に頂いた言葉、黒田奨学会の奨学生として相応しい学生生活を送らなければと思ったこと。黒田奨学会の奨学生になった日の喜びと緊張は、今でも昨日のことのよう鮮明に覚えています。

6年間にわたり奨学金を頂いたことは感謝してもしきれません。援助いただいたことで、アルバイト等に割く必要があったであろう時間を勉学に使うことができましたし、また、必要を感じた教材類

も奨学金を使って購入させていただき、より学びを深めることもできました。ご支援いただき、本当にありがとうございました。

奨学金を頂いたこと以外にも、黒田奨学会での研修等を通して得ることのできた経験はとても有難いものだったと、社会人としての第一歩を踏み出した今、改めてそう感じています。入学して初めての研修では、先輩方の発表に圧倒され、私にもできるのだろうかと不安でいっぱいになりました。もちろん、1年生での初めての発表は決して上手くいったとは言えない出来だったのですが、その後も研修会で何度も先輩方の発表やそれに対する講評を聞き、「どうすれば、人に聞いてもらえるプレゼンになるのか」、「どうすれば、専門分野の異なる人の興味をそそるプレゼンをすることができるのか」、「プレゼンにあたって何が重要なのか」など、これから私が社会人として社会に貢献していく上でとても重要なことを学ばせていただいたように思います。これらのことは、大学の講義や実習を受けたのみでは決して得ることのできなかった貴重な経験でした。ご指導ご鞭撻いただき、ありがとうございました。

この4月から、臨床研修医として、幼いころからの夢であった医師としての第一歩を踏みだしました。まだまだわからないことばかりで不安はありますが、この6年間、黒田長高様、黒田奨学会に頂いた恩、医療を通して社会に返していけるよう、精一杯頑張りたいと思います。

最後になりますがご支援、ご指導いただいたすべての方に重ねて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

名古屋大学医学部医学科・卒業 矢野 礼智

この度、名古屋大学医学部医学科を卒業いたしました矢野礼智と申します。長高様を始め黒田奨学会のみなさまには6年という長い期間、ご支援、ご指導頂き大変感謝しております。今年の2月に行われました第116回医師国家試験に無事合格しましたので今年度より三重県にある市立四日市病院で初期研修医として勤務しております。三次救急の市民病院ということもあり、救急車の搬送台数も多く、日々勉強しながら忙しいながらも充実した毎日を送っております。

私は現役時代に黒田奨学会から内定を頂いておりましたが自分の力不足により志望の大学に不合格となりました。それにもかかわらず、一浪した際にもまた採用して頂き、大変感謝したことを今でも覚えております。一年生の時の関西地区の研修会では初めてということもありとても緊張しましたが。先生方からお褒めの言葉をいただき、スライド作りや準備を評価していただけたと感じて嬉しくなりました。その後の懇親会ではお酒もあり緊張も解けたくさんお話しすることができました。6年生時の最後のプレゼンでは学外実習で学んだことをその診療科の部長の先生に監修していただき、6年間の集大成として発表を行いました。先生からは流石最高学年のプレゼンだとおっしゃっていただき、今後のプレゼンにも自信を持つことができました。研修会を6回経験して研修会でのプレゼンも慣れてきましたが、プレゼンの重要性にやっと気づくことができ、今考えるともっと発表の題材を考えることから準備の時間を取ればよかったと終わった際に反省を致しました。

6年間の中、記憶に残っているのは新型コロナウイルス感染症により以前とは異なる大学生活となったことです。病院での学内実習が中止となり本来の半分程度しか実習することができなくなりました。多くの制約の中でしたが医師になる身として正しい情報を取捨選択することの重要性を改めて理解しました。これからは医師という立場で黒田奨学会の掲げる社会貢献を心がけ、働きたいと思っております。最後になりますが6年間のご支援のおかげで心配することなく大学を卒業し、医師になることができました。本当に感謝しております。今後の黒田奨学会のご発展を心よりお祈り申し上げます。

九州大学医学部医学科・卒業 龍 正一郎

この度、九州大学医学部を卒業いたしました龍正一郎と申します。黒田長高総裁をはじめとする黒田奨学会の皆様には、6年間にわたってご支援、ご指導いただき心よりお礼申し上げます。

6年間の黒田奨学会での研修を通して最も良かったことは、自分の研究分野に対する熱意を持った先輩、同級生、後輩たちの研究発表を聞くことができたことです。機械の振動が人体に及ぼす影響や医療機器の新たな滅菌方法、効率のいい細胞染色方法などの研究発表は、医学が医学以外の学問との関わりによって成り立ち、発展していることを再確認することができました。他の奨学生の上手で独創的な研究発表を聞き、質疑応答や懇親会でより深く知ることができる環境は大変恵まれていたと感じ、そのような場を設けていただいた黒田奨学会には感謝の念でいっぱいです。

研修会はこの数年、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催になりました。オンラインならではの利点、工夫もありますが、やはり直接その分野を専門としている方々の話を聞くことができる機会は貴重なので、再び対面で研修会が行える日が来ることを願っています。また、医学部の学習は暗記が中心でモチベーションの維持が難しかったのですが、定期的に面談で相談にのっていただいたり、頑張っている奨学生の姿を見ることでやる気が湧いてきました。国家試験直前で気分が落ち込んでいる時もメールで激励してくださり、気分が楽になったこともあります。

この6年間、ご迷惑をおかけすることもありましたが、時に優しく、時に厳しくご指導いただいたおかげで、無事研修医として働けることになりました。4月からは大川市の高木病院で、一人前の医師になれるよう一生懸命研修に励みたいと思います。今までご支援、ご指導ありがとうございました。

九州大学経済学部経済経営学科・卒業 小石 健仁

4年半もの間、奨学金を支給していただき本当にありがとうございました。奨学金を支給していただいたおかげで、私は大学生活を通して学問と課外活動にしっかりと向き合うことができました。

私は大学生活を通して3回の留学と30カ国でのバックパックを経験しました。これほどの経験を積むことができたのは間違いなく奨学金の支えがあったからです。特に3回の留学のうち1回であるベルギーへの留学では、毎月の支給に加えて海外研修助成金まで支給していただきました。また、奨学会のみなさんには金銭面のみならず精神的にも支えていただきました。私にとって特に印象に残っていることはベルギー留学期間中に岡本先生にいただいたメールです。試験前で追い込まれていた時期に、体調を気遣うメールをいただき、大変元気が出たのをよく覚えています。

研修会を通してたくさん成長させていただきました。年に1回の発表はもちろんですが、渡辺先生がご欠席された際には学生司会として会の進行をさせていただいたこともありました。初めての試みで大変緊張しましたが、出席されていた他の奨学生の皆さんの協力もあり、なんとか問題なく進行でき、大きな達成感と自信を得たのをよく覚えています。また、昨年9月の卒業後にも、「創業セミナー」の司会を依頼していただき、登壇者の方と打ち合わせをして式全体をオーガナイズするという大変貴重な経験をさせていただきました。実際に創業を経験された奨学生や卒業生のお話は大変勉強

になるもので、私自身も司会をしながら一参加者として多くのことを学ばせていただきました。

このように奨学会、そして奨学会の皆様を受けた恩を思えば、本当に枚挙に遑がありません。長い間本当にありがとうございました。そして、これからも様々な形で関わりを持たせていただければと考えておりますので、引き続き宜しくお願い致します。



黒田奨学会同期の卒業記念旅行にて
左より小石、石崎、東（敬称略）
（九大医学部6年・石崎さんより送付）

京都大学文学部人文学科・卒業 小河 義典

この度、京都大学文学部を卒業いたしました小河義典と申します。黒田長高さまをはじめ、奨学会の皆さまには日頃より多大なるご支援を賜り、大変感謝いたしております。また一昨年には新型コロナウイルスの流行という未曾有の非常事態に際して、特別奨学金を給付していただき、誠にありがとうございました。学部生としての4年間のうち、およそ半分をいわゆるコロナ禍の下で過ごすこととなりましたが、奨学会からのご支援のおかげで経済的な不安を感じることも無く学業に専念することができました。

私はイタリア文学とオペラの研究をしています。いわゆる人文科学に含まれる領域です。奨学会では「社会貢献」について考える機会がたくさんありますが、人文科学はそれから最も遠い学問であるように思われます。それは、私の中で医学や工学、社会経済学などの方が実生活でダイレクトに役立つイメージがあるからかもしれません。しかし、なんでもAIがこなしてしまう今だからこそ、人の営みを研究する人文科学は非常に重要な役割を担っているとも考えていますし、その意義を感じて研究活動に没頭することができています。

研修会や総会など奨学会の行事の度にいつも思うことなのですが、黒田奨学会には人文系の学問を専攻している方がかなり少ないです。そのおかげもあって、研修会はいつも私にとって離れた分野のお話が聞ける刺激的な場でしたし、その一方で、私の好きなもの、研究しているものを他分野の人に話すことのできる数少ない機会でもありました。経済的なご支援だけでなく、このように貴重な機会をいただけたことも、奨学会の一員で良かったと思える大きな理由の1つです。

4月からは、京都大学大学院文献文化学専攻イタリア語学イタリア文学専修へと進学いたします。大学院においても黒田奨学会の奨学生として学生生活を送れることを誇りに思っております。皆様のご支援とご期待に応えられるよう、また将来の社会貢献へと繋がるよう、研究に邁進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



京都大学卒業式での黒田奨学会同期生
左より小河、窪田、仲山（敬称略）

九州大学工学部地球環境工学科・卒業 小山田 莉緒

私はこの春、九州大学工学部地球環境工学科建設都市工学コースを卒業致しました。黒田奨学会の皆様には、大学4年間多大なるご支援とご指導を賜りまして、心より感謝申し上げます。

先日の奨学生卒業記念式典にて、岡本先生方が作って下さったお祝いのスライドを拝見して、入学時の自分の姿のあどけなさに非常に驚きました。4年間で成長できたのは黒田奨学会のおかげだと思っております。一番印象に残っているのは研修会です。自分の専門分野以外のことを学べる貴重な機会にいつもワクワクしていましたし、他の奨学生が発表する姿にとっても刺激を受けました。また小田部先生に教えていただいた分かりやすいプレゼンテーションの方法は、大学の授業でも生かすことができました。研修会は、自分を成長させてくれたとても貴重な機会でした。

また、美味しいものをいただきながら、奨学生や先生方とたくさんお話ができる懇親会は毎回の楽しみでした。最近、このようなご時世でなかなか懇親会ができなかったことが大変残念です。奨学会で集まって意見交換できる機会が早く戻ることを祈っております。

このように、黒田奨学会は、経済的ご支援だけではなく、成長する多くの機会を下さいました。本当にありがとうございました。

私は4月から九州大学工学部土木工学専攻に進学します。今後も、地震や水害などの災害が発生した場合に多くの命を救うことができる事業の効果を研究したいと考えております。

大学院修士課程においても引き続き、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、非常に光栄です。黒田奨学生という自覚を忘れず、社会貢献という目標を持って、さらに勉学や研究に積極的に励んでいく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

京都大学教育学部教育科学科・卒業 窪田 璃駆

まずは、4年間様々な面で面倒を見ていただきありがとうございました。私にとって京都大学で過ごした4年間は二重の意味で自由だったと思います。一つ目はご存知の通り“自由の学風”を標榜する京都大学の雰囲気、そして二つ目に家族からの自由です。私が育った家庭の環境は決して良いものとは言えず、（新原先生はもしかしたらご存知かもしれませんが）高校生までずっと家族の問題に振り回されていました。そうした環境から距離を置き、自分の足で立つ決意ができたのは間違いなく黒田奨学会のご支援があったからだと思います。思い返せば、この4年間でたくさんの失敗をしました。そして、そのたびに手を差し伸べてくれる人や叱ってくれる人がいました。これは黒田奨学会の諸先生方も決して例外ではありません。高校の“先輩”である岡本先生を筆頭に、たくさん厳しくも愛のあるお言葉をいただく機会がありました。こうした方々に恵まれた4年間は間違いなく私にとって財産となりました。このような環境を用意していただいたことに対する感謝の思いを完璧に表現できる言葉が見つかりません。代わりに1つだけ随想をさせてください。

とある合宿に参加していた際のことです。留学生の男の子に対して過去の恋愛についての質問が飛びました。その男の子は言葉を選ぶように、「彼氏ならいたことがあるんだけど…」とつぶやきました。それに対して、とある女の子が「私そんな差別しないから安心しなよ」と咄嗟に返しました。周りは何事もなかったかのようにその発言を流したのですが、私はその発言を聞き、喉元に小骨が引っかかるような感覚を覚えました。彼女に悪意がないのは知っています。彼女はとても優しい人なのも知っています。しかし、その“優しさ”こそが彼が常に抱えている後ろめたさを顕にさせてしまいました。エピソードとしては以上です。こうした日常に潜む暴力性についてきちんと考えるにあたり、大学で学んだ社会学という手段は非常に役に立ちました。言い換えるなら、大学での勉強を通じて“人々が日常的に掲げるもやもや”に対しての感性が高まったように思います。こうした‘もやもや’を解消することこそを使命として、今後社会に対して貢献をしていくことができたと思います。

九州大学理学部地球惑星科学科・卒業 高山 竜之介

この度、九州大学理学部地球惑星科学科を卒業いたしました。黒田長高様をはじめ黒田奨学会の皆様には、学部生の間の4年間、ご指導ご支援いただき心よりお礼申し上げます。

黒田奨学会の皆様のおかげで、普通の大学生では経験できないようなことがたくさんできたなと感じております。特に研修会の発表においては、専門知識からパワーポイントの作り方まで、様々な勉強をすることができました。初めて研修会で発表したときは今でも一番印象に残っております。パワーポイントを使って発表するのが初めてで、かつ、人前がとても苦手だったので、発表前はとてつもなく緊張しておりました。発表の際にミスがあり、発表後はとても落ち込んでいたのですが、懇親会でほめていただき、とても嬉しく、良い刺激をいただきました。研修会での発表を重ねていくうちに、先生方の様々なご指導をいただいたおかげで発表が上達し、人前での発表も少しずつ慣れていきました。この経験を卒業研究の発表でも生かすことができ、とても分かりやすく見やすいと教授の方々に褒め

ていただきました。黒田奨学会の皆様のおかげで、専門知識からプレゼンの方法、そしてマナーまで多岐にわたり勉強させていただきました。このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

私はこの春から、九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻に進学いたします。大学院でも引き続き奨学生として採用していただき、深く感謝申し上げます。大学院では、震源域の断層の向きや応力の向きと大きさを細かく分析し、どこでどのくらいの大きさの地震が発生するか予測できるように研究していきたいと思っています。そして、地震発生予測の実現に向けて引き続き精進して参ります。進学後も黒田奨学会の奨学生としての自覚を忘れず、人々の安全を守ることができる研究者になれるよう努めます。今後ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

京都大学工学部物理工学科・卒業 仲山 智裕

黒田長高総裁をはじめとする黒田奨学会の諸先生方の多大なるご支援のおかげで、この度私は京都大学工学部を卒業することができました。心から感謝申し上げます。

まず、奨学金でのご支援を頂いたことで、経済的な不安なく大学生活を送ることができたことは大変心強く感じました。奨学金の返済による経済的負担が社会問題となっている今、給付型での多額の奨学金を頂いたことは感謝してもしきれません。

また、金銭面でのご支援だけでなく、研修会を開催して頂いたことも大きな励みになりました。一般的な大学生活を送る上で、自分の所属していない様々な学部や学科の学生の研究内容について多数のプレゼンを聴き、質疑や議論を交わすことはまずありませんし、同様に自分の研究や勉強の成果を全く違う分野の人々に向けて発表することもあります。発表を聴く立場として、先輩方が、諸分野での最先端の研究成果を素人にも分かりやすく、かつ魅力的に発表してくださったことから多くの学びを得られましたし、同期や後輩のとても興味深い発表を聴いたときは、負けてられないな、と大きな刺激になりました。発表を行なう立場としても、聞き手が前提知識をあまり持っていないことを考えて、丁寧にかみ砕いた、しかし指定された時間内に収まるようなよい説明を考えることで人に分かりやすく伝える力を養うことができました。発表後の質疑や講評では、自分の行なった研究や勉強の詰めの甘さへのご指摘や、プレゼンについての具体的なアドバイスなど、奨学会の先生方に貴重なご意見を頂くことができました。研修会で学んだことは、卒業研究や卒論発表において大変役立ちましたし、春から大学院で研究を行なう上での自信にもつながります。昨今では学際的な研究が重要視されていますが、このように他分野の方々の発表を聴き、かつ自分の発表に対する他分野の方々からのご意見を頂ける機会に恵まれたことにとても感謝しています。

最後になりましたが、黒田奨学会を卒業し、瑞藤会の一員となることを誇りに思います。この4年間頂いた多大なご恩を、少しずつではありますが社会貢献という形へ昇華させていきます。改めて、4年間本当にありがとうございました。そして、瑞藤会の一員として、今後ともよろしくお願いいたします。

東京大学経済学部経済学科・卒業 松本 凌佳

黒田長高様、伊達理事長をはじめとした黒田奨学会の皆様には毎月の奨学金の支援に加え、コロナ感染症の流行時には特別支援金の援助を賜りました。本当にありがとうございました。また、理事の先生を始めとする多くの皆様にはアドバイスを頂いたり、奨学生同士の交流の機会を作って頂いたり、かけがえのないご支援を頂きました。4年間ご支援頂き、本当にありがとうございました。

黒田奨学会の皆様にご支援頂いておりました4年間を振り返ってみますと、大きな衝撃を受けた体験として1年生の12月に行われた研修会が挙げられます。授業や学術書で数理統計を学んでいた私は、

自分が一番好きだった数理統計の理論をパワーポイントにまとめて発表致しました。しかし、理論の理解があやふやで誤りを含んでいたり、聞き手が理解しづらい専門的な内容に終始してしまったりしたため、理事の方々や奨学会の先輩方からお叱りの言葉を頂くことになりました。発表直後は落ち込んでいたのですが、他の先輩方の工夫が散りばめられたプレゼンを見て、伝えたいことをわかりやすく伝える技術の大切さを痛感致しました。その後、在学中にプレゼン技術を磨いておきたいと考えた私は上場企業のリサーチを互いに発表、議論し合う自主ゼミに参加しました。またそこで学んだ内容や、優秀な友人たちに心を惹かれ、経済学部に進むことを選択することになりました。振り返ってみますと、自分にとって毎年の研修会はその先の人生を左右するほどの刺激的な経験でした。3、4年生時はコロナウイルスの影響でオンラインの開催になりましたが、多くの奨学生の皆様の発表や、理事の皆様のアドバイスから様々なことを学ばせて頂きました。同時にZOOMというソフトの制限がある中で、見やすくわかりやすいプレゼンテーションを追求するという非常に貴重な機会だったと思っております。

最後にもう一度、感謝の気持ちを書かせて頂きます。黒田奨学会の皆様、4年間の長きにわたり様々な形でご支援頂き、本当にありがとうございました。4月からは新社会人としてレオス・キャピタルワークス株式会社に入社することになっております。黒田奨学会の皆様から教えていただいたこと、4年間大学で学んだことを社会に還元していくとともに、黒田奨学会の名に恥じない人間になれるよう今後も努力して参ります。

東京大学教養学部学際科学科・卒業 真野 いずみ

この度は東京大学を卒業し、社会人としての歩みを一步踏み出すことになりました。歴史と伝統ある黒田奨学生として採用していただき、緊張と期待を胸に大学生活を始めた4年前が、つい最近のことのように思い出されます。大学生となってから今に至るまで、黒田総裁をはじめ奨学会の皆様にはたゆまぬご支援とご鞭撻を賜り、本当にお世話になりました。あらためて感謝申し上げます。

私が東京大学への進学を希望したのは、小学生時代から好きだった地理を学問として深めてみたい、せっかくなら大学で好きな分野の勉強がしたいと考え、それが実現できる環境が東京大学にあったからです。大学を卒業した今、4年間を振り返ってみると、入学時に思い描いていた大学生活とは違うものの、希望のままに人文地理学を専攻し、サークル活動や趣味などにも打ち込み、自由にのびのびとした時間が過ごせたと感じています。

大学3年生になってから新型コロナウイルスが流行し始め、現地に赴き、人と話すことが大きな意義を持つフィールドワークが思うように行えないという困難に直面しました。私が学問としての人文地理学を志し、かつ東京大学に入学を希望した一つの理由として、地図や統計情報をもとに地域の実態を分析することだけでなく、フィールドワークという形で地理に関する研究を深めていく人文地理学の手法に魅力を感じた点があります。したがって、外出の自粛を余儀なくされ、人との関わりを制限されるコロナ禍では、地理学の学問としての魅力を十分に感じる事ができない日々を過ごさざるを得ませんでした。しかしその中でも自ら調査先にアポイントを取り、オンライン上でのインタビューやWebアンケート等を実施するなど自分なりに工夫を重ね、コロナ禍での研究活動を乗り切れたことは大きな自信に繋がっています。

さらに、学問面にとどまらず、人間関係や自分の価値観においても大きな変容と成長を遂げることができたと感じています。様々な経験を積み重ね、私だけの唯一無二の学生生活を送ることができたと胸を張って言えるでしょう。これまで経験した全ての出来事が自分にとって何らかの糧になっていると確信を持っています。

末筆ながら、これまで大学生活を様々な形で支えていただいた黒田奨学会への感謝の気持ちを忘れずに、社会人としての誇りと自覚を持ち、国民のためになる仕事を全うしつつ自らの人生を切り拓いていきたいと思っております。

長岡技術科学大学機械創造工学課程・卒業 東 遼晴

この度、黒田奨学会のご支援のお陰で長岡技術科学大学機械創造工学課程を無事に卒業することができました。これまで色々のご支援いただき、誠にありがとうございました。

この2年間、黒田奨学会のご支援のお陰で研究活動に集中することができ、研究活動を学内だけではなく、学会発表などの学外でも行うことができました。研究活動だけでなく、課外活動も行うことができ活動範囲を学外に広げることができました。これらの内容は黒田奨学会のご支援がなければ経験できませんでした。各地区の研修会では、周りの奨学生の発表を拝聴することで自身の専門以外の知識に触れる機会ができたことや、自分の発表に対してのご指摘を受けることで自身のプレゼン力を高めることができ、黒田奨学会の一員として勉学に励むことでエンジニアとしての能力をより向上させることができました。

また、新型コロナウイルス感染拡大により、多くの大学生が退学あるいは休学しなければならない状況のなか、追加のご支援をしていただいたことで、不安に思うことなく勉学に励むことができました。私は、長岡技術科学大学院工学専攻へ進学し、航空流体研究室にて小型飛翔型としてトンボを模したドローンの設計に関する研究を進めていく予定です。大学院では、研究と同時に学部から所属しているアドバンスドコースにて勉学中である、「戦略的な技術展開力」「国際的にも通じるリーダーシップ力」「複眼的で柔軟な発想力」の3つを身に付け、将来エンジニアとして社会貢献できるように努力して参ります。

この2年間は、コロナウイルスの影響もあり研修会や理事の方との面談が全てオンラインでの開催となりました。その結果、黒田奨学会の奨学生や理事の方と直接お会いすることは疎か、話す機会ですら少ないものとなりました。これからは黒田奨学会の奨学生や奨学会と関わりを持てるような活動を積極的に行っていく所存です。

最後に、引き続き大学院でのご支援誠に感謝いたします。これからもご指導いただきたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

東京工業大学理学院化学系・卒業 山根 奏太郎

この度、東京工業大学理学院化学系を卒業いたしました山根奏太郎です。私は、久留米高専からの編入という形で3年生からでしたので、2年間のご支援ありがとうございました。

私の大学三年生の生活は、ちょうどコロナウイルスが問題となった最初の年であったこともあり、前期は学校に通うことすらできず、東京で一人寂しく暮らしていました。そのような時に、黒田奨学金から支援していただいたお金の一部で、毎月一度ほどもつ鍋などをお取り寄せし、美味しいと思うと同時に、福岡を一人懐かしんでいました。あまり胸を張って正しいと言える使い方ではなかったとは思いますが、寂しく無気力であったあの時に、人生の一つの楽しさを教えていただいたかなと個人的には思っています。また、4年生になってからは打って変わり、毎日朝から夜まで研究室に通い、本当に忙しい日々を送りました。かなりしんどかったですし、辞めたいということもありました。そのような中で、夏休みにzoomで面談があった際に、「山根くん、痩せたんじゃない、大丈夫?」、と心配してくださり、ちゃんと見てくれている人がいるのだなと内心、物凄く安心したのを覚えています。私がなんとか、研究室を一年間やりぬき、研究に没頭することができたのは間違いなく、黒田長高様をはじめとした黒田奨学会の皆様のおかげです。改めて、感謝を述べたいです。

もう2年前になりますが、参加した入学式において、自分と同じように北九州高専から編入した東さんと自分より年下の新入生の方々が、自分の夢や目標をしっかりと持ち、語っていたことに衝撃を受け、自分がこの奨学会でやっていけるのだろうか、と物凄く焦ったことを覚えています。しかし、それが自分にとっては良い刺激となり、2年間頑張ることができたと思っています。どうしても手を抜いてしまいがちな（個人的見解ですが…）オンライン授業も、それなりの良い成績を取ることができ、

研究室選びに関しては緩い研究室に逃げず、きついことは想像がついていても、自分が一番やりたいと思えるテーマの研究室を選ぶことができました。ランナーズハイの様なものと個人的には思っていますが、今では大変さの先にある研究の楽しさを感じられることが増えました。あの時、同じ場所にいた新入生の皆様にも心から感謝したいです。

最後に、私は、同じく東京工業大学の大学院に進学させていただきます。これからも、支援していただけるということに感謝しかありません。至らない部分も多いと思いますが、精一杯努力しますので、よろしくお願いいたします。



東京大学工学部航空宇宙工学科4年 井原 渉

東京大学工学部航空宇宙工学科4年の井原渉と申します。この度、4年間お世話になりました黒田奨学会からの卒業となったこと、大変感慨深く思います。過ぎ去った月日を思い返すと、大学での勉強、サークルや学生団体での活動、友人たちとの交流など非常に充実して刺激的な毎日でありました。経済面の心配をせずにこのような体験をすることができたのも、ひとえに奨学会から毎月のご支援を頂いていたおかげです。改めまして黒田長高総裁、そして黒田奨学会の先生方にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

黒田奨学会から頂いた御恩は経済的な面に留まりません。18歳で初めて親元を離れて一人暮らしをすることになった身にとって、故郷である福岡県とのつながり、そして受けている期待を常に思い出させてくれる奨学会の存在は、精神的な支えとなっていました。毎年12月の研修会はプレゼンテーションや質疑応答の貴重な経験ができ、自身の能力向上にもつながりましたが、私にとっては他の奨学生や先生方とお話しして福岡のことを思い返すことができる価値のある2日間でもありました。新型コロナウイルスの感染が拡大した時期には生活のことを真剣に気遣っていただき、大変感動いたしました。家族以外にも故郷から気にかけてくれる方々がいるということはとても幸せなことであると気づき、大きな励みとなりました。

諸事情あって今年度は休学することになり、大学を卒業することはできませんでした。奨学会を「無事に」卒業することができず、多くの方にご心配・ご迷惑をおかけしたことを申し訳なく思います。現在は将来を考えていろいろと試行錯誤をしている時期ですが、将来の「社会貢献」につながる進路を真剣に選び取ろうと思います。そのことがこれまで黒田奨学会から頂いたご支援に報いる第一歩であると同時に、黒田奨学生としての責務を果たすことでもあると考えています。そしていずれは各分野で活躍していらっしゃる諸先輩方に続けるように、今後とも精進してまいります。

入学のよろこび

Welcome to KURODA SHOGAKUKAI

学士課程新入生

大阪公立大学医学部 牛島 陸斗



福岡高等学校を卒業し、大阪公立大学医学部に進学しました牛島陸斗と申します。この度は黒田奨学会の奨学生に採用して頂き、ありがとうございます。伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員となれたことを大変喜ばしく思います。さまざまな分野でご活躍されている先輩方の大きな背中を見習って励んでいこうと思います。

私はこれから6年間、小さい頃からの夢であった医師になるため、大学で勉学へ取り組んでいきます。これからの大学生活の中で自分が将来やりたいことを突き詰めていくための準備を積んでいきます。大学在学中の目標は、医師として求められる患者さんの細かな変化に気がつくことができる、という医師のコミュニケーション能力を身につけることです。

私は将来臨床医となって実践経験を積んだのちに研究医となって、遺伝子に関わる研究をしたいと考えています。臨床経験を積んで研究医となることで、実際に医療の現場で求められているものを直接体感し、臨床と研究との接続に貢献したいと考えています。現代の世界において、国々では研究が進められ、日々医療が発展していく中でも先天性の病気を持って生まれてくる子どもはたくさんいます。また、治療法が見つからず、病に苦しんでいる人たちもいます。先天性の病気には遺伝子由来のものが多く、治療しようにもできないものがたくさんあります。そのような人々を救うべく、遺伝子の変異などについて研究し、難病の治療法を確立するのに寄与したいです。研究医となって治療法の確立に努めることで、将来生まれてくるであろう子どもたちを救うことができると考えています。臨床医として患者さんたちを一人一人診て治療していくことは大切ですが、研究医となり治療法を確立することで、より多くの

患者さんたちを救うことができます。

最後になりましたが、改めまして黒田奨学生として採用していただき、ありがとうございます。6年間自分のやるべきことに向けて精一杯尽力いたしますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

慶應義塾大学法学部政治学科 大場 雅翔



福岡高等学校を卒業し、慶應義塾大学法学部政治学科に進学しました大場雅翔と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。長い歴史のある

黒田奨学会及び瑞藤会の一員となれたことを誇りに思うとともに、大変嬉しく思っております。黒田奨学会の名に恥じぬよう、研鑽に励む所存です。

さて、私は政策を研究し、提言したり或いは実現したりする仕事に就き、日本の政治、社会のために尽力したいと考えています。昨今、国際社会は国家間の紛争が絶えず、SDGsをはじめとする国際的な課題に対しても大きな進展がないなど、厳しい時代に突入しました。日本は今後国際社会の一員として、アジアのリーダーとして各国をリードしていく必要があります。国内を見てみると、少子高齢化が進み、これから国力が低下するのではないかと懸念されています。その懸念は果たして本質的なものでしょうか。

私は、少子高齢化は数ある要因の中の一つであって、大きな原因となっているのは時代にそぐわない政治体制や経営システムなど、より構造的な部分にあると考えています。予測可能なデータをいち早く分析し、政策を打ち出していけば、たとえ人口が減っても対応することはできるかもしれません。そのうえで、もし構造的に問題があるならば、誰かが是正していかなければなりません。私はその政策議論を先導していける人材になりたいと考えています。そのため、大学では専門的な知識だけでなく、総合的な見識を持ったゼネラ

リストとなるべく、入学当初から政治学の専門的な学びに加え、経済や会計、歴史、化学など学部を横断するような学びを展開し、幅広い教養を身につけていきたいと考えています。

そして、日本の価値観だけにとらわれず、世界各国の政治、政策、文化などを比較研究し、自国の風土にあったものにアレンジすることができれば、将来政策議論の際に大いに役立つと信じています。また、政策を考えるだけでなく、それを伝えるメッセージも重要です。大学ではゼミや少人数の授業に参加して積極的に発言するとともに、課外活動にも精力的に励み、伝える力を磨いていきたいと思っています。

最後に、まだまだ未熟な私ですが、大学では失敗を恐れず、積極的に行動に移していきたいと思っています。4年間精一杯努力していきますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

大阪大学法学部 郭 薔



中村学園女子高校を卒業し、この春、大阪大学法学部国際公共政策学科に進学しました郭薔と申します。この度は名誉ある黒田奨学会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。身に余る光栄に存じます。

私は人権問題とその解決に向けた政策について学びたいと思い、法律学はもちろん、政策学の授業も充実している大阪大学法学部国際公共政策学科に進学を決めました。人権問題と一口に言っても、その性質や原因は多岐にわたり、インターネットの普及やグローバル化の進行によって新たな人権問題も発生しています。日本国内では外国人や女性に対する差別、同和問題などが挙げられます。また、中国では新疆ウイグル自治区やチベット自治区で民族弾圧が続いており、アメリカを中心とする欧米諸国では黒人差別やアジア人に対するヘイトクライムが相次いでいます。特にパンデミック以来、こうした人権問題が深刻化していると感じます。では、なぜ人権侵害が発生するのでしょうか。この問いの答えを探るべく大学で学びを深めていくわけですが、現段階では「人間は『自分と異なる他者』に対して行き過ぎた自己保身に走ってしまう場合があるから」というの

が私の考えです。

私は将来、国際機関やNGOで人権問題の解決に携わる形で社会貢献したいと考えています。人権問題という複雑な課題に対応するためには専攻分野である法律学・政策学だけでなく、それと密接な関係にある経済学や政治学の知識も必要となります。また、先程も述べましたが、インターネットの普及やグローバル化の進行によって新たな人権問題も生じているため、従来の文理の枠組みを超えた幅広い知識が求められると思います。常に向上心・探究心を持ち、専門知識はもちろんのこと、幅広い知識の習得に向けて努力を怠らず、勉学に励む所存です。

無事に入学式を経て、私の大学生活は始まりました。よく言われることですが、大学は高校までとは違うと日々実感しています。例えば、選択する機会が増えました。選択する機会が増えたということは自由度が増したとも言えることができますが、その分多くの責任を伴ったとも言えます。大学生になったことや成人年齢がひき上げられたことで、一人の「大人」として自分の言動への責任を一層強く感じています。

最後に、まだまだ未熟で至らない点が多いと思いますが、黒田奨学会の奨学生に相応しい人物になれるように、そして将来大学での学びを社会に還元できるように、日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東京大学教養学部理科Ⅰ類 方倉 颯馬



修猷館高等学校を卒業し、この春東京大学教養学部理科Ⅰ類に入学いたしました方倉颯馬と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、まことにありがとうございます。歴史ある黒田奨学会の一員とな

れたことを大変光栄に思うとともに、身が引き締まる思いであります。

さて、私には日頃から大切にしている言葉があります。それは「楽観視、なんとかなる」です。現在、社会には解決や是正をしなければならない問題や課題が山積している、と盛んに言われています。また、それらはただ1人の力ではどうにもしようがないと思われていることが多いです。しかし私は、そのような社会問題に臆することなく、気張らず、

ラフに構えて、楽しく取り組むような姿勢を大切にしたいと思っています。つまり、楽観的に、全員で頑張ればなんとかなるだろうと考える、ということです。そうすることで、社会問題や課題が敷居の低いものにみえ、より多くの人を巻き込むことができると考えています。このように、周りの人にさりげなくポジティブな影響を与えられる人物になれるよう、努力していく所存です。

また、私は宇宙工学の道に進み、それによって社会へ貢献していきたいと考えています。つまり、地球上の問題を広い宇宙にある何かを用いて、解決する手立てを実践的に導き、実現し、応用していきたいということです。たとえば、枯渇の危機にあるレアメタル、新たなエネルギー源になりうる可能性をもつヘリウム3といった物質は、それぞれ小惑星、月面に存在が確認されており、それらを利用する手立てが作られれば、文字通り直接的に資源問題を解決することができます。資金的、社会的、技術的にも高い壁が存在することは間違いないのですが、将来は壁を壁と思わず、楽観的、けれども現実的に物事を考え、社会貢献へ繋げていくようなことをしたいと考えています。

そのために、大学ではリベラルアーツで多角的な視点を身につけ、専門課程でより専門的で高度な知識を得るとともに、ハイレベルな同級生、先輩、教授の方々がいる環境の中で、切磋琢磨しながら、一生懸命学業に励む所存です。

未熟なところの多い私ですが、大学や黒田奨学会で得られる繋がりを大切に、多くのことを学んでいきたいと思っています。精一杯努力致しますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

九州大学文学部人文学科 國崎 康平



九州大学文学部人文学科1年の國崎康平と申します。この度は奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。生まれ育った福岡に根づく歴史ある黒田奨学会及び瑞藤会への入会は、大変栄誉であり、爾後の修学姿勢の根幹を成す契機になると確信しております。また、両会の一員となることに重く責任を感じております。

私は歴史学に携わり、社会への責任を果たして

参りたいと考えております。今般のロシアによるウクライナ侵攻に関する報道では、両国の歴史的関係を遠因として分析するものが多く、改めて歴史が社会あるいは社会を構成する個人に与える影響の大きさと、歴史学に携わることの責任の重さを実感しております。歴史学は社会に対して可視的な貢献をすることはおそくないでしょう。

ですが、歴史学には社会に生きる私たちに、現在を考察し、未来を展望する視座を与え、より良い社会への行動を支える力をもっている、そう私は考えております。また現代は「多様性」を尊重するよう促される時代です。九州大学文学部における歴史学コースには、日本史・東洋史・西洋史・考古学のみならず、朝鮮史・イスラーム文明の研究室も設置されており、より多様な視点で歴史を学ぶに相応しい場となっております。まずはその多様性に触れ、私自身がどのような視点から、どのような方法で何を社会に伝えていくのかを真摯に見つめて参ります。

入学の喜びを申し上げる場には不適當ですが、私の大学進学は必ずしも喜びに満ちたものではありませんでした。しかし、世界で教育はおろか食料も十分に得られない同年代の方が数多くいるなかで、黒田奨学会の奨学生に採用していただき、大学生活を始められたことに深く感謝いたします。悔しさと感謝を胸に4年間学業に専心し、皆様のご助力を賜りながら、さらに高い舞台に進むことができるよう努力して参ります。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東京大学文科Ⅰ類 小淵 朝陽



この春、久留米大学附設高等学校を卒業し、東京大学文科Ⅰ類に進学することとなりました小淵朝陽と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生に採用していただき、深く感謝申し上げます。これまで、私は黒田家や奨学会について深く存じ上げずにいました。瑞藤会会報や創立百周年記念誌を拝読し、黒田家や奨学会の歴史の重みを感じました。奨学生としての矜持を保ち、日々研鑽を積むことを改めて決意いたしました。

私は、法や政治の分野から、広く国際社会の平和に貢献していきたいと考えています。といいましても、具体的な進路が定まっていないのが現

状です。3月の面接時には、法曹・国際弁護士・議員等々の職種の羅列に終始してしまいました。また、法学を強調していたのですが、政治学でも良いのではという助言もいただきました。幸いなことに、東京大学の前期は専門分野ではなくリベラルアーツの修学が中心だそうです。この時期に様々な学問を修めて将来の構想を構築していきます。また、私の未確定要素の強い将来の構想の中でも、国際社会の平和に貢献すること、法学を修めること、そして国際社会で活動することの以上3点は確固たる志です。

私が東京大学の前期入試を受験する前日(2月24日)より、ロシア政権がウクライナへ侵攻を開始しました。私はその衝撃の大きさゆえ、入試の前日・当日に拘わらず、テレビ画面のニュース速報に見入ってしまいました。まさか本当にロシア政権がウクライナに侵攻するとは、というのがその時の正直な感情でした。30年ほど前の冷戦終結時に言われた「歴史の終わり」という言葉の真実性が真に失われた瞬間に感じられました。ロシア政権によるウクライナ侵攻は、人道的見地から、古くからのスラブ文明の歴史的経緯から、そして近現代の国際法の観点からも決して許されないことです。これは未然に防ぐことはできなかったのだろうかと考えさせられました。昨今は以前よりまして「安全保障」が叫ばれています。しかし、その議論が軍事力ありきの話になっている感は否めません。

私は、戦争の惨禍を経て一度は戦力放棄・平和主義・核廃絶を真に希求した日本に生まれました。日本人として、私は本当の平和とは何かを模索しつつ、司法や政治の中枢に立ち、少なくとも主権勢力による軍事行動が一切起こることのない世界を創っていきたいと考えています。最後になりますが、黒田奨学会の奨学生に採用していただいたことに、改めて深く御礼申し上げます。国際社会に貢献できるために日々研鑽を積んでまいります。これからご指導のほどよろしくお願いいたします。

大阪大学薬学部薬学科 堺 梨紗



この春より大阪大学薬学部薬学科に入学することになりました堺梨紗と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生に採用していただきありがとうございます。歴史ある黒田奨学会の一員になれたことを大変光栄に思っています。

まず、先日行われた黒田奨学会の入学式では、様々な分野で活躍されている先輩方のお話や、高い志を持った同期の方々との対面を通して、自分のすることがどのように社会貢献につながるのかを日々考えながら、充実した大学生活を送ろうと改めて決意しました。

私は創薬研究者として将来医薬品の開発に携わりたいと思い、大阪大学薬学部を選びました。医薬品といっても、新薬やジェネリック医薬品など様々な種類がありますが、どれも人の健康や命に関わるものです。人の命に関わる職業につく者として、覚悟を持って何事にも取り組みたいです。大阪大学薬学部の理念の一つに、薬剤師、研究者のどちらになるにしても、現場を知り研究ができる人材の育成というものがあります。通常よりも早く研究室に配属されることを生かして研究活動に力を注ぎ、目の前の研究だけでなく、その研究の成果が社会に還元されることを想像することを忘れないようにしたいです。学部6年間では、薬学について学ぶことはもちろん、研究室での活動や病院実習なども行います。実習を通して臨床、医療の第一線に触れることで、薬の開発が多くの人の幸せにつながっていることを実感できればと思います。

また、私は大学生活を送るなかで心掛けたいことがあります。それは、疑問をすぐに捨てないことです。日々の生活や学習で感じた疑問や気づきは、自分にとって価値のあるものです。そのような疑問の深掘りが、のちの研究にも繋がる可能性があります。研究を始めた時は、その研究が何の役に立つのかがはっきり見通せないものでも、研究を進める過程で活用法が見えてくることがあります。だから、小さな気づきを大切にしていきたいです。

黒田奨学会の研修会を通して、自分の知識が浅い分野について学び、自分の専門分野を誰にとってもわかりやすく伝えられるようになりたいです。また、先輩方や同期の方との繋がりを大事にした

いと考えています。まだまだ至らない点が多々あるかと存じますが、これから実りある大学生活を送れるよう、日々様々なことに挑戦してみようと思っていますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

熊本大学工学部 檜木野 介子



久留米高専を卒業し熊本大学工学部へ第3次編入しました檜木野介子と申します。この度は黒田奨学会の新奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学会及び瑞藤会の一員となれた

たことを光栄に思うと共に、初めての一人暮らし、そして大学での勉学、どちらも身を引き締めて行うことを決意致しました。

現在、日本では15m以上の橋梁が数多く建設されており、その多くは鉄鋼やコンクリートで作られています。現在ではこれらの橋梁をはじめとする、高度経済成長期に建てられた大型構造物の老朽化が問題となっています。建設後、耐用年数である50年が経過した橋梁は2040年頃には8万橋を超えると推測されています。この数は橋梁全体の約50%を占めており、橋梁の補修、補強及び長寿命化対策が必要不可欠になることが予想されています。

近年では長寿命化対策として、重量の少ないアルミニウム合金を橋梁の主要部材として用いる事が注目されつつあります。アルミニウム合金は鋼材に対して約1/3の比重であり、その軽量性から、地盤体力の弱い地域での架橋や、既に建てられている橋梁の上部をアルミニウム合金へと架け替え、地震荷重の低減や施工作業性の向上が考えられています。また、耐食性の良さから、再塗装が難しい海浜地区といった地域での架橋等においても鋼材よりも有利であると考えられます。

実際に、兵庫県にある金慶橋は桁部にアルミニウム合金を使っていますが1961年に建設されてから61年間、著しい腐食や割れ等は観察されていません。

このように利点の多いアルミニウム合金ですが、桁部にアルミニウム合金を使用した大型の橋梁は金慶橋が唯一であることや、床部にアルミニウム合金を用いた橋梁は古くても20数年と、経年

劣化のデータが少ないことなど、さらなる研究が必要な材料でもあります

私は、久留米高専でアルミニウム合金を用いて橋梁の補修、補強を行う場合のアルミニウム合金の破壊挙動の解明と延命化を研究してきました。この研究を行い、老朽化した橋梁などへの施工を実現していくことで時間、人材、コストを抑えた補修、補強及び長寿命化対策が可能となります。しかしながら、これを実現していくにはまだまだ知識、経験が少ない現状です。そこで、久留米高専で学んだことを活かし、熊本大学でも勉学に励むことで、高度な知識と実験技術、自ら考え行動する自主性を身につけたいと考えております。

現在問題視されている社会問題などを材料という観点から考え、持続可能な社会を実現できるような研究者になります。また、自分の弱点である英語を克服することで、日本だけでなく様々な国の研究者の考え方も取り入れ、多角的な視点から物事を捉え考えることのできる人間へと成長したいと思っています。

まだまだ未熟ですが黒田奨学会および瑞藤会の一員として誇りを持ち精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

九州大学医学部医学科 難波 陽生



大学医学部医学科に入学しました難波陽生と申します。黒田奨学金の奨学生として採用して頂き、ありがとうございます。伝統ある奨学会の一員となり、身が引き締まる思いです。高い志を持つ仲間や経験を積まれた先輩方、す

でに社会に貢献されているOBの皆様に出会えたこの機会を大切に、皆様の姿を参考に、社会に貢献できる人材となり、この恩に報いたいと思っています。

私は、大学で患者さんの病気を治す、または病状を軽減する方法を学ぶのに加え、患者さんの人生を預かり、医療行為の責任を負う医師の役割を果たすため、人生と幸福についての考察も深めていきたいと考えております。

プロ野球日本ハムファイターズの現監督である新庄剛志さんは、闘病中のお父様の余命が幾ばくも無いと医師から伝えられた際に、お酒が大好きなのに我慢されていたお父様に「好きだけお

酒を飲んでいいよ」と言ったそうです。治療の観点からすれば、それは余命をさらに縮めることになりかねない行動だと言えますが、新庄さんは、お父様に残りの時間を精一杯楽しんで欲しくて、そう伝えたそうです。そのおかげで、お父様もご自身の人生に満足され、笑顔で息を引き取られたそうです。新庄さんは、医療のプロではありませんが、このエピソードは、私の理想の医師のあり方を考え直すきっかけとなりました。

また、私の尊敬する兼好法師は、徒然草にて、人生に関する様々な考察を示しています。特に、「人生は明日にも終わる可能性があるからこそ、人は死を忌避するべきではなく、死と向き合うべきである」という無常観は、私が人生について考察する際の軸となっています。いずれ終わりが来ってしまう人生を、人はなぜ歩むのか。幸せな人生とは、一体どういうものなのか。

患者さんの人生を幸福なものにすることができる医師になるべく、私は治療法を研究することはもちろん、この人生に関する問いへの答えを探し続けていきます。そのためにも、多くの人と出会い、様々な見方を学んで、それぞれの人生の幸せのあり方について考えて行きたいです。

至らぬところも多く、頼りないと思われるかもしれませんが、黒田奨学会の一員として、これから精進していく所存です。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

長崎大学医学部医学科 林 宏輝



宗像高等学校を卒業し、この春より長崎大学医学部医学科に進学しました林宏輝と申します。この度は黒田奨学会に奨学生として採用していただきありがとうございます。伝統ある黒田奨学会、瑞藤会の一員になれたことを大変誇りに感じています。

私は将来、医師として国際的な医療活動に従事し、医療福祉の行き届いた世界の実現に向けて貢献していきたいと考えています。このような目標を抱くようになったきっかけは、高校時代に経験したボランティアなどの校外活動です。元々私は環境問題に関心があり、それに関連した清掃活動やプログラムに多く参加してきました。そんな中、ある講演で環境問題が影響して蔓延していく感

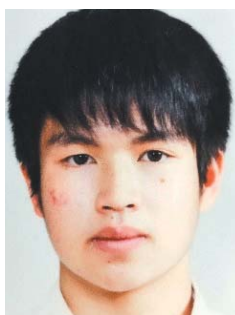
染症、公衆衛生問題について学ぶ機会がありました。現在、私たちは一国では解決できない環境問題という大きな問題に直面しています。そこで自分自身がそうした問題の解決に、医療の面から携わっていきたいと考えるようになり、医師を志しました。医学というのはこれまで私自身が深く学んでこなかった学問ではありますが、これから先の人生をかけて向き合っていくという覚悟をもち、日々の学習に励んでいきます。

「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。」これは長崎大学医学部の開学の祖であるポンペの言葉です。この理念は私自身が大学生を送っていくうえで、さらには将来、医療人となっていく上で大切にしたい言葉の一つです。私が医学を学べるのは、家族、学校、など数多くの方々からの支えがあったからです。この感謝の気持ちを忘れず、私がこれから得る知識、経験を病で苦しむ人のため、社会のために還元していきます。

また長崎大学医学部は世界唯一の被爆を受けた医学部です。昨今の緊迫した社会情勢の中で「核の傘」「核の抑止力」という言葉を多く耳にします。現在、世界は核兵器廃絶への道とは真逆に進んでいるのかもしれませんが、しかし、大量虐殺兵器の使用というのは最も私たちが避けなければならない事態です。これまでの歴史から平和に向けて学び取れることは数多くあります。私自身、そうした教養を身につけるとともに平和の実現に向けた発信、また平和の礎となる社会福祉の根幹を支えていけるような医療人へ成長していきます。

黒田奨学会を通じて、大学を越えた仲間たち、また社会の第一線で活躍されている方々と関わりを持てることを非常に嬉しく思います。様々なことを学びとり、自らの成長の糧とさせていただきます。これからの大学生活で、様々なことに挑戦し、懸命に努力してまいります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

大阪大学工学部応用理工学科 東 開土



この春、筑紫丘高校を卒業し、大阪大学工学部応用理工学科に進学しました東開土と申します。この度は黒田奨学会の奨学生に採用していただき誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会と瑞藤会の一員となることが

でき光栄です。また、各方面で活躍されている先輩方と関わりご指導いただけることも大変ありがたく感じております。これから日々精進し、社会に貢献できる人材となるべく、何事にも真摯に取り組む所存です。

私は元々コンピュータに興味があったことから、情報セキュリティに関する技術者になりたいと考えています。現在、簡単にたくさんの情報を得ることができ、生活が便利になっているとはいえ、全ての人において利便性や安全性が十分であるとは言えません。新型コロナウイルス感染症による社会生活の変化に伴い、テレワークやオンライン授業、オンライン診療などデジタル化が進んでいますが、その急速な変化に社会全体が追いついていないと感じています。インターネットを利用することが当たり前になっていますが、情報漏洩やクレジットカードの不正利用などの問題も報道されない日はないと言っても過言ではないほど起きています。又、近年では異常気象や自然災害、エネルギー問題、人口減少等に対応する機械や技術の革新が必要とされ、工学において幅広い知識と技術を身に着けることが求められています。人々がより豊かで安心安全な生活を送るために役立つ工学の全体を考えながら、大学での勉強と研究に励んでいきたいと考えています。

現在、履修登録も終わり、講義が始まりました。情報科学、力学、統計学、ソフトウェア開発体験などに加えて英語の授業にも力を入れています。技術的なことのみに囚われず、広い視点から物事を考えて他者とのコミュニケーションを積極的にとることを心がけ、新しい視点や発見を得られるよう、一日一日を大切に過ごすように努めて参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東京大学教養学部文科二類 広田 瑞貴



今春、修猷館高校を卒業し、東京大学教養学部文科二類に進学した広田瑞貴と申します。このたびは、歴史ある黒田奨学会・瑞藤会の一員として迎え入れていただき、ありがとうございます。深い感謝と同時に、身の引き締まる

思いを感じているところです。

両親には、働いていた父親がすでに定年退職し、家計が厳しい中で、東京の大学に進学させてもらっています。そのため、本来であればアルバイトなどで時間を削りながら学ばねばならないところを、奨学会の皆様のご支援により学業に集中できる環境を作っていただきました。この幸運を生かし、有意義な学生生活を送っていく所存です。

小学校時代に、一度だけ家族で台湾へ旅行に出かけたことがありました。私は、初めての海外旅行に浮かれるあまり旅先で高熱を出してしまい、現地の病院を受診することになりました。言語がなかなか通じないなかで、慌てる母親の姿が強く印象に残っています。

この経験が契機となって、漠然と将来像を考えるようになった中学生のころには、海外で何かしらの困難を抱えている日本人を助ける仕事に関心をもつようになりました。私が高校に進学したころには、技能実習生の問題が盛んにとりあげられるようになり、海外で活動する日本人だけでなく、日本で働く外国人の支援もしたいと感じるようになってきました。

具体的にどのような形でこの目標を実現するのかは不確定でしたが、黒田奨学会に出願するにあたってこの目標についてより真剣に向き合った結果、国境を越えて活動しようとする企業の、税制面その他での助言と、国境を越えて活躍しようとする労働者の、企業などとの交渉の代行や協力、という二つの側面での支援をすることを考えるようになりました。

しかしやはり、目標はいまだに具体的なものではありません。社会経験や知識が少なく、企業進出や労働力移出の実情をはっきりと想像できていないためです。そこで、大学在学中に講義やゼミを通して社会科学に関する理論面での知識を深めるのはもちろんのこと、インターンシップなどを含め、なるべく多くの社会経験を積み、知見

を広げながら目標の具現化につなげていこうと思います。もちろん、こうした学びのなかで目指す将来像が大きく転換することもあるかもしれませんが、柔軟な視点を忘れず、自分に適した社会貢献のあり方を常に模索していきます。

最後になりましたが、まだ至らない点も多く、奨学会の先輩方・理事の皆様方にご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、積極性をもって4年間突き進んでゆく所存ですので、何卒ご指導のほどよろしくお願いいたします。

東京大学教養学部理科三類 山中 心源



久留米大学附設高等学校を卒業し、東京大学教養学部理科三類に入学した山中心源と申します。この度は、伝統ある黒田奨学会の一員となれたことを大変喜ばしく思います。皆様と共に、社会に貢献できる人材となるべく、これからの大学生活に真摯に取り組むたいと考えています。

私は、社会を端的に定義すると、「人々からなる共同体」だと考えています。従って、社会が健全に成長していくためには、構成員である人間が健全な状態にあることが必要だと考えます。そこで役立つものが、医療です。その中でも私は現在、医学研究、特に病理的解析に携わりたいと考えています。患者の体調不良の原因を正確に把握することは、より良い医療を提供する上で、大変重要なことです。日々発展するAI等の技術を用いて、診断等の精度を上げることが私の目標です。

東京大学ではこの文章を書いている現在、すでにオンラインでの授業が始まっています。生命科学や化学等、将来の目標に関わる授業も行われています。同時に、東京大学の教養学部では、語学や人類学・統計学など様々な学問を修めることが出来ます。これらの学問も、世界の最先端の研究者と交流したり、データを解析したりする上で大変役に立つことでしょう。前段では大きな目標を書きましたが、まだまだ大学に進学したばかりの若輩者ですので、日々多くのことを学んでいます。自分にとって未知の世界を学ぶことができるのは非常に心躍る経験です。また、大学には様々な人が属しています。彼らとの交流は本当に刺激的ですし、人々への還元を最終目標とする医療に従

事する上でも重要だと考えます。こうした初心を忘れずに、これからも学業に励み、将来の目標に向けて邁進して参ります。

最後になりますが、このような充実した学生生活を支えてくださる黒田奨学会への感謝と、その一員となれた喜びを以て、この文章を締めさせていただきます。

九州大学工学部Ⅰ群 吉田 遼太郎



この度は、私を黒田奨学会の新入奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史ある黒田奨学生としての誇りを胸に抱き、その名に恥じぬよう、日夜研鑽に励みたいと思っております。

私は、高校時代、何か興味のあることがあっても、勉強が忙しいことを言い訳にして、手を出していないことが多々ありました。そのため、大学では、自分の専攻学科の勉強に励むのは当然として、大学の授業以外でも積極的に活動していきたいと思っています。ここでは、その中でも二つの活動に絞って話していきたいと思っています。

一つ目は留学です。私は、将来的に起業をしたいと考えていますが、近頃の企業は、国外でも仕事をするのが当たり前になってきました。海外に進出するためには、外国語の十分な能力だけでなく、海外の文化に関する知識が必要です。なぜなら、日本で成功した手法が、文化の違いから、海外では失敗したというのはよくある話ですし、その逆もあるからです。加えて、日本にはない設備や制度があるので、それらに注意しつつ、時には有効活用しなければなりません。これらを学ぶために留学というのは効果的な手段です。また、留学のための準備の過程でも、英語のコミュニケーション力をはじめとした、様々な能力の向上が期待されるので、是非とも留学したいと考えています。

二つ目は、起業の勉強です。九大には、QRECというアントレプレナーシップ教育を提供する機関があります。そこでは、起業や、新しい価値の生み出し方について授業をしてくれるだけでなく、優れたアイデアを持つ学生を支援してくれたり、国内外問わず、投資家などの前で、自身のアイデアをプレゼンテーションする場を整えてくれたりします。また、QRECでは、自分のやりたいこと

に賛同してくれる仲間を集める場があり、現在、合成生物を作るサークル、ロケットを飛ばすサークルなどもあります。私は、QRECを最大限活用して、企業の準備を整えたいと思います。

大学一年生という、まだまだ社会人には程遠い感じがしますが、最近では、どの分野においても十代二十代で成功するというのは珍しいことではなく、十八歳というのはもはや若い年齢ではありません。今すぐにでも実践的なことを行いたいという気持ちはありますが、私はまだ他人に誇ることができる技術や知識を持っていないため、今始めても、すぐに立ち行かなくなるのが目に見えています。そのため、まずはここで紹介したような、自らのスキルアップにつながる活動に励み、そのあとに実践に移したいと思います。

大学院特定枠修士課程生

九州大学大学院工学府応用化学専攻 高岡 祐太



4月より九州大学大学院工学府応用化学専攻に進学しました高岡祐太と申します。この度は、特定枠でのご採用、感謝申し上げます。歴史ある黒田奨学会の奨学生となれこと、光栄に存じます。

私は、エネルギーの分野から持続的な社会を実現する研究に関わりたく九州大学を志しました。去年より取り組んでいる電気化学CO₂還元反応は、エネルギーを生み出す過程において生成される二酸化炭素を固定化する技術です。この技術の実現によって、エネルギーを持続可能なものにすることができるだけでなく、カーボンニュートラルな社会の実現に強く寄与する技術だと考えています。

私は、この分野において技術革新を起こすことで、社会の基盤から変革をもたらすことができる研究者を目指しています。これまでに、移動手段が馬車から車に変化し、コミュニケーション手段が手紙からスマートフォンに変化したように、人類が積み重ねてきた研究成果を基にした技術革新が、私たちの生活を大きく変えてきました。これらのような技術革新を起こすためには、他分野からの視点を取り込むことが重要だと考えています。実際に、私は化学だけでなく、生物、都市、機械、デー

タといった複数の分野から多角的にエネルギーが抱える課題の解決を目指す研究所に所属しています。この研究所に所属されている有機化学の先生から、研究に関する指導をしていただいたことで、他分野の視点の重要性を感じました。加えて、指導が学生に与える影響の強さも実感しました。この経験から、科学、研究の面白さを伝え、一人でも多くの科学者を育成していくことが、日本国のみならず世界を変えることに繋がっていくようになりました。未来の科学者を育成するため、若者に対する科学教育にも携わりたいと考えています。

私は、黒田奨学会のご支援のもと、技術革新を起こすことができる研究者および若者を導くことができる研究者となり、持続可能なエネルギーによる、豊かで安心できる社会を実現したいと思っています。何卒よろしくお願い申し上げます。

九州大学大学院薬学府・創薬化学専攻 藤本 茉奈



私は、九州大学大学院薬学府創薬化学専攻の藤本茉奈と申します。この度は、黒田奨学会大学院特定枠奨学生の一員として採用していただき、本当にありがとうございます。こうして、皆様とのご縁を頂けたことをとても嬉しく思っています。私は現在、細胞生物薬学、分子衛生の研究室で、環境汚染物質のひとつであるダイオキシンに関する研究を行っています。地球全体で環境汚染が進んでいる中で、次世代の子供たちが安心して暮らすことができる世界をつくることを目指して、日々研究しています。

皆様は数十年前に大問題となったカネミ油症事件をご存じでしょうか。これは、ダイオキシンの一種であるポリ塩化ビフェニル(PCB)等が混入した油を摂取したことによる大規模な食中毒事件です。この油症の発症機構については未だ解明されておらず、油症患者さんから生まれた子供にもその影響は残っています。私たちの研究室では、その発症機構や毒性軽減機構を明らかにするための研究を行っており、これは現在の環境汚染による影響から人々を守ったり、いまだに環境汚染の深刻な中国等世界各国の問題を解決したりすることにも繋がります。

現代の環境汚染は人間が招いた結果であり、

次世代や地球を守るために行動することは、今を生きる私たちの使命だと考えています。私は、研究という立場からこの使命を全うし、今の社会や将来の世界に少しでも貢献できるよう、努力します。ただ研究に打ち込むだけでなく、将来的にはそれを伝え、広めていくことにもしっかりと力を入れていきたいと考えています。黒田奨学会には様々な分野で活躍されている先輩方が多数いらっしゃいます。今回、奨学生に選んでいただいたことで、経済的な支援だけでなく、このような方々と関われることに感謝し、多くのことを学んでいきたいです。精一杯頑張りますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

**九州大学大学院生物資源環境科学府
生命機能科学専攻
松井 優樹**



この春から九州大学大学院生物資源環境科学府生命機能科学専攻に進学します松井優樹と申します。この度は黒田奨学会の奨学生に採用いただき、誠にありがとうございます。長い歴史と伝統を持つ黒田奨学会および瑞藤会の一員となれることを心から光栄に思うとともに黒田奨学会の名に恥じぬよう精進していきたいと思っております。私は、本年度より新設されました大学院特定枠として採用されました。大学院特定枠の一期生として模範となれるような大学院生活を送っていききたいと考えております。

私は、大学4年間で食品の持つ機能性について学習してきました。健康は食事や運動、睡眠等の生活習慣により長期的に形成されます。中でも食事は健康に多大な影響を与えることが明らかとなっており、2015年に機能性表示食品制度が開始されるなど、人々の食品の機能性への関心は高まりを見せています。その中でも私は研究テーマとして、食品の中でも「飲む」ことにより摂取可能な緑茶に着目し、大学4年間の研究で、緑茶に含まれる成分が脳機能改善作用を示すことを見出しました。

大学院前期課程では、緑茶成分による脳機能改善作用の作用メカニズムについて解明することを目標に研究を進めてまいります。現在の日本では、健康寿命と平均寿命が約10年乖離しており、高齢者を含めた国民の健康寿命の延伸は喫緊の課題です。厚生労働省のデータによると、要介護者において介護が必要となった原因の第一位であり、認知症予防は健康寿命の延伸のための重要な課題であると考えます。私は、大学院前期課程での研究により、緑茶成分による脳機能改善作用の作用メカニズムを解明することで、認知症の予防だけでなく、現在有効な治療法が開発されていない神経変性疾患の治療法の確立により、世界中で脳機能の低下に悩む人々に治療法を提供することで社会貢献していきたいと考えています。

最後になりますが、採用していただいた黒田奨学会の皆様への感謝を忘れず、社会に貢献できるよう精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

トピックス

●黒田長高総裁と絢子様が奨学会事務局を訪問されました

4月4日に、奨学会総裁の黒田長高様とお嬢様の絢子様が黒田奨学会の事務局を訪れられました。前日の3日に来福され、京都の大徳寺龍光院と茶道・遠州流が主催した黒田長政公400年忌の法要茶会(崇福寺にて)に出席されたものです。

長高様達が奨学会事務局を訪問されたのは2011年3月の東日本震災時にご家族で福岡に避難されていた時以来の事です、新しい事務局を見られたのはもちろん初めてのことで、「明るくて広い事務所ですわ」とのご感想でした。

奨学会スタッフたちと昼食をとられた後、「浜の町黒田家別邸跡地」に建てられた竣工直後の「舞鶴スクエアビル」を見学されました。「最新のビルはセキュリティや照明、換気の点で非常に進化していますね。」とのご感想でした。

(田中)



●創業セミナーが開催されました

令和3年11月29日、午後7時より「創業セミナー」と題して、スタートアップに関するオンライン勉強会を行いました。参加者は黒田奨学会卒業生で過去に3度の起業を経験された有吉洋平さん、黒田奨学会奨学生で株式会社Yanekaraを創業した松藤圭亮さんを始めとする、創業に関心を持つ奨学生、卒業生の7名と先生方でした。

セミナーは先に名前を挙げた御二方による基調講演の後に、座談会という形で進行しました。基調講演では、松藤さんに「学生時代における起業」、有吉さんに「社会人時代における起業」というテーマでお話ししていただきました。

松藤さんのお話は学生起業のネックとなる「研究と事業との両立」、「事業リソースの確保」に主眼を置いたものでした。前者の簡潔な結論としては研究と事業の方向性を一致させることが重要というものでした。後者に関してはリソースの前にまず良いメンバーを集めて、良いチームを作ることが何よりという前提の上で、さまざまな創業支援プログラムをご紹介いただきました。このようなプログラムに採択されない場合は？という疑問に対してはプログラムに採択されない場合、将来性がない可能性が高いので別の事業に取り組んだ方が良いという考え方が、言われてみれば当然ですが、私の中では印象的でした。

有吉さんのお話はご自身の起業経験を比較して、社会人の起業にはどのような選択肢があるのか、その魅力、そしてその成功要因について分析するというものでした。成功要因として確実なものは多くないそうですが、「スピード」、「挑戦回数」、「やり抜く」この3つは間違いなく重要であろうとのことでした。最後には現奨学生にむけて「人生は短い、やりたいことをやるべきだし、楽しいと思えることをやってほしい」という熱いメッセージもいただきました。

座談会では全員で創業をテーマにざっくばらんに話し合いました。起業に対する純粋な疑問や、不安などを経験者の方々にぶつけられる機会は大変貴重で、全員から様々な議題があがり、議論は大変盛り上がりしました。

今回のセミナーの映像は昨年リニューアルされた黒田奨学会ホームページにて公開されています。創業を志す方、興味をお持ちの方には大変意味のあるセミナーとなっておりますので、お時間のある際に、ご覧いただければ幸いです。

(瑞藤会会員 小石健仁)

黒田奨学会 創業セミナー

11/29(月) 19:00-21:00 (オンライン開催)

基調講演① (20分)
「学生時代における起業について」
登壇者：松藤圭亮

基調講演② (20分)
「社会人時代における起業について」
登壇者：有吉洋平

参加者自己紹介 (10分)

座談会 (70分)

★ 登壇者について ★

松藤圭亮 黒田奨学会奨学生、東京大学大学院工学系研究科、大学での研究を主として、YANEKARAを創業。同社は電気自動車用の充電システムを利用したビジネスを行っている。	有吉洋平 黒田奨学会卒業生、2014年東京大学工学部、ロンドンから归国を経て、2020年ハイテック株式会社を創業。同社は現在、上場準備の段階にある。学生時代を含めて3度の起業を経験。
--	---

司会者より
今回のセミナーは奨学生の「起業に関する勉強会の提供」と「ネットワーキング」の2つの目的で開催されます。座談会では奨学生と卒業生の間で、インターネット上かつカジュアルに、登壇者や参加者同士の交流ができればと考えております。ぜひ、お気軽に参加ください。
(参加者は自費的なビジネスアイデアは不要です！起業に少しでも興味があれば、是非に参考になる話が聞ける貴重な機会になると思いますので、参加をお勧めします！)

松藤奨学生感想

先月は、奨学生自主開催の創業セミナーで、学生起業の経験についてお話ししました。修猷の先輩であり、3度目の事業に挑戦されている有吉先輩の話からは、事業のミッションやビジョンを創業者が心から信じているかが、その事業を持続させるかどうかを決めるということを学びました。少人数でしたが尖ったメンバーが集まり、今後も一定割合の奨学生が創業またはスタートアップへの就職を選ぶ予感がしました。この流れを、継続的にお手伝いしていくつもりです。

有吉洋平氏 略歴

福岡県立東筑高校から福岡県立修猷館高校へ編入・卒業後、東京大学工学部システム創生学科へ入学、在学中に同学科長賞を受賞、主席卒業。ローランドベルガー社を経て2020年ハイタレント株式会社を起業、同社は現在、上場準備中。



●小幡ナシム氏、IEEEより受賞！

この3月に九大大学院・システム情報科学府を修了した小幡ナシム氏が、在学中の研究および学会発表が評価されてIEEEから受賞されました。

IEEE(アイ・トリプル・イー、Institute of Electrical and Electronics Engineers)は、アメリカ合衆国に本部を置く電気・情報工学分野の学術研究団体(学会)、技術標準化機関であり、会員の分布、活動は全世界的規模に及び、この種の専門職団体(英語版)として世界最大規模の組織だそうです。

小幡氏は

- ・2021年IEEE福岡支部学生研究奨励賞
- ・2021年IEEE福岡支部発表奨励賞

の二つの賞を受賞され、本人の言葉を借りれば、このように受賞をし、充実した学生生活を送ることが出来たのは、ひとえに奨学会からのご支援のおかげであり、感謝の念に堪えません、ということで、黒田奨学会としても非常に嬉しいことです。

(岡本)

●東大修士課程2年の稲富翔伍氏が論文賞を受賞！

現在、東大大学院工学部社会基盤専攻2年の稲富君が土木学会の2021年AIデータサイエンス論文賞を受賞されました。

論文賞は土木学会・構造工学委員会によるもので、構造工学でのAI活用に関する研究小委員会では、AIデータサイエンス論文集中、革新性・将来性・社会性に優れた論文に送られる賞ということで、2021年度は7論文が表彰され、そのうちの 하나가次のタイトル、彼の論文です。

タイトル

点群の画像化とディープラーニングを用いた橋梁点群のセグメンテーション

今後の益々の御活躍を祈ります。

(岡本)

●九大修士課程1年の高岡祐太氏が発表賞とポスター賞を受賞！

この4月に黒田奨学会に初めて設定された大学院特定枠募集で採用された高岡祐太奨学生が3月に行われた学内発表会において優秀発表賞を、また、触媒学会主催の触媒討論会において学生ポスター賞を受賞されました。

学内発表会は九州大学大学院物質科学工学科応用化学コース機能クラスで行われたもので、その最終諮問会での学生相互評価によって選ばれました。

「Bi担持金属有機構造体UiO-66を用いるCO₂の電解還元」というタイトルです。

また、オンラインで行われた触媒討論会では「Bi担持MOFを用いた二酸化炭素還元反応によるギ酸合成」という発表に対しての賞です。

本人は研究成果が学内外で高く評価された賞と考え、これらの評価に慢心せず、研究に取り組んでいきたいとのことでした。(岡本)

●黒田家第14代御当主の黒田長禮様の懐古写真です！

静岡県伊東市にお住まいで出版関係のライター兼編集者をされている夏目タカヲ氏からの話題提供です。

彼は「カラー写真で見る昭和20年代の伊豆半島」という記事を連載されているのですが、その中で鳥類学者オリバー・L・オースティン博士(フロリダ大学)が黒田家第14代御当主であり鳥類学者でもあった黒田長禮様の別荘(静岡県沼津市)に立ち寄ったことを知り、地方新聞に記事掲載をされています。夏目氏より新聞が送られてきましたので紹介いたします。



●黒田奨学会のホームページがリニューアルされました！

令和3年12月1日より公益財団法人・黒田奨学会のホームページが新しく生まれ変わりました。



小林・濱田の両事務員の努力により、見やすくすっきり感のある、そしてアカデミックな雰囲気さえ感じられるホームページです。奨学生専用のページや瑞藤会会報を掲載したページもありますので、気軽にログインしてください。

<https://www.kuroda-s.com/>



●令和3年度 奨学生卒業記念式

令和3年度黒田奨学会卒業記念式は令和4年3月21日(月・祝)午後2時半より、オンライン形式により執り行われました。卒業記念式、入学式ともに昨年に引き続いてのオンライン形式です。

式典開始から黒田長高総裁様にも御出席いただき、御挨拶を頂戴しました。引き続き、役員を代表して野中理事より卒業祝辞を述べてもらいました。野中理事は長年、関西地区理事として奨学生の指導をしてこられましたが、この4月より関東地区理事として黒田奨学会を支えて頂くことになっています。

続いて、卒業生への祝辞は瑞藤会先輩の寺嶋秀司様から激励の言葉も含めて頂戴しました。寺嶋氏は昭和56年に九大経済学部を卒業され、現在は(株)朋栄で人事総務関係、特に採用関係を担当されています。目の前の仕事をきちんとやること、周囲の人の善いところを見ること、利害関係の無い友人を作ること、精神的な健康を維持することなど、社会人として踏み出す卒業生にとっては具体的で貴重なアドバイスになったことでしょう。

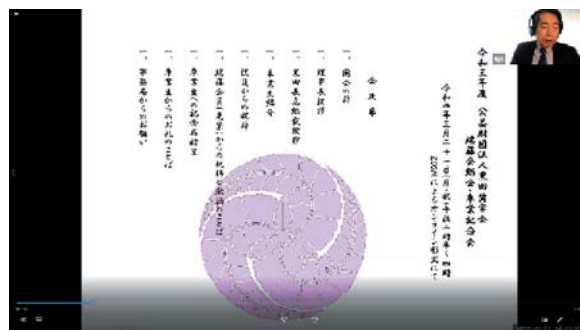
例年行っている記念品贈呈式はオンラインということもあって、卒業生には事前に郵送で済ませ、式典ではスライドで紹介しました。黒田藩の紋・三つ巴藤入りの博多織名刺入れで素晴らしい記念品です。

引き続き、卒業生全員から黒田長高様と黒田奨学会へのお礼の言葉を一人1分程度で述べてもらいました。4年ないし6年間の感謝の気持ちを今後も忘れることなく大事にして欲しいものです。

最後に今回もサプライジングとしてBGM付きのpower pointによる「黒田奨学生の想いで」をスライドで紹介しました。卒業生からは懐かしかった、楽しかったなどの感想をもらい、質素なオンライン卒業式典ですが、少しでも印象深く、心に留めてくれればと思います。

昨年に続き今年の卒業記念式では例年のような「卒業記念写真」撮影もなく、祝宴もなく、非常に寂しい式典となりましたが、皆様の社会人としての出発を祝う思いには変わりありません。今後の皆様のご活躍を心から祈りながら、卒業記念式の報告とさせていただきます。

(岡本)





参加者ギャラリーレビュー（○は卒業生）

令和3年度 修士課程修了生および学士課程卒業生

（令和4年3月21日現在）

名 前	大 学	学 部	進 路
佐 藤 尚 弥	東大院	工	有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザー事業本部
原 口 義 基	九大院	工	九州電力
小 幡 ナシム	九大院	工	日本モレックス合同会社
前 田 優 華	九大	医	JCHO九州病院
矢 野 礼 智	名古屋大	医	四日市市民病院
龍 正一郎	九大	医	高木病院
小 石 健 仁 (2021.9月卒業)	九大	経	住友商事
小 河 義 典 *	京大	文	京都大学大学院文学研究科文献文科学専攻
小山田 莉 緒 *	九大	工	九州大学大学院工学府土木工学専攻
窪 田 璃 駆	京大	教	セプテーニホールディングス
高 山 竜之介 *	九大	理	九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻
仲 山 智 裕	京大	工	京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻
松 本 凌 佳	東大	経	レオス・キャピタルワークス
真 野 いずみ	東大	教養	国土交通省
東 遼 晴 *	長岡技術科学大	工	長岡技術科学大大学院機械創造工学専攻
山 根 奏太郎 *	東工大	理	東京工業大学大学院理学院化学系

*：黒田奨学生として給付継続

●令和4年度 奨学生入学式

令和4年度の奨学生入学式は令和4年3月21日（月・祝）11時より、新型コロナウイルスが収束しない中、オンライン形式にて行なわれました。

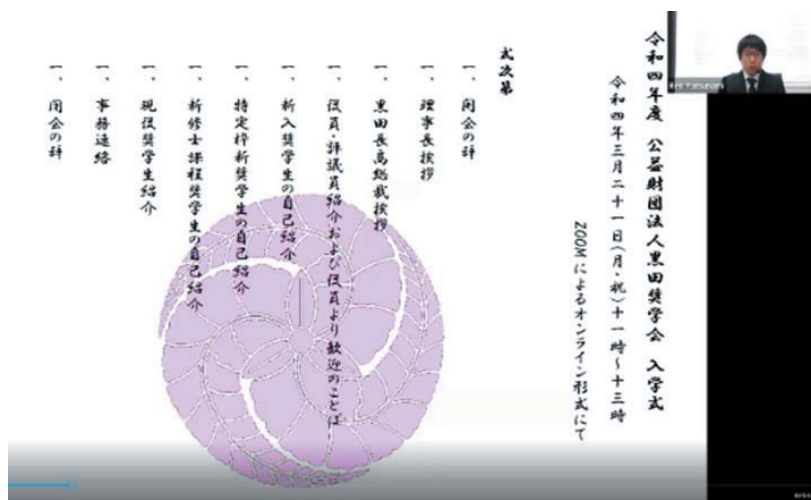
大学学部新入生は13名（内、編入生1名）、学部から引き続き大学院修士課程に進んだ5名、4年度から始まった特定枠修士生が3名の計21名です。理事長挨拶に始まり、黒田長高総裁様の挨拶、理事・評議員紹介と続きました。役員を代表して教育指導担当の八並理事（式次第右上写真）から黒田奨学生としての心構えなどを交えて、歓迎の言葉として厳しくも心温まるスピーチがあり、奨学生も印象深かったことと思われます。

新入生からの自己紹介では黒田奨学生となった喜びや奨学生としての決意、大学での勉学など抱負を語ってくれ、自己研鑽に努めることを約束してくれました。

現役奨学生からの歓迎の言葉では九州地区代表として九大理学部4年の矢ヶ部君、関西地区代表として京大理学部3年の権藤君、関東地区代表として井手君が、また全体を代表して黒田奨学会では長老的？な立場である九大理学府・博士課程3年の古賀君がそれぞれ、大学生活で心がける点や黒田奨学生としての留意点など、先輩の立場から有益な話をしてくれました。新入生にとっては参考にもなり、黒田奨学生としての心意気が高まったことでしょう。

とりわけトラブルもなく、12時半、予定通りに終了することができました。

（岡本）



参加者ギャラリービュー
（○は新入生）

令和4年度 新奨学生

学部生

氏 名	出身校	大 学
牛 島 陸 斗	福岡	大阪公立大学・医学部・医学科
大 場 雅 翔	福岡	慶應義塾大学・法学部・政治学科
郭 薔	中村	大阪大学・法学部・国際公共政策学科
方 倉 颯 馬	修猷館	東京大学・理科一類
國 崎 康 平	福岡	九州大学・文学部・人文学科
小 淵 朝 陽	久留米附設	東京大学・文科一類
堺 梨 紗	筑紫丘	大阪大学・薬学部・薬学科
植木野 介 子	久留米高専	熊本大学・工学部・材料応用化学科
難 波 陽 生	大濠	九州大学・医学部・医学科
林 宏 輝	宗像	長崎大学・医学部・医学科
東 開 土	筑紫丘	大阪大学・工学部
広 田 瑞 貴	修猷館	東京大学・文科二類
山 中 心 源	久留米附設	東京大学・理科三類
吉 田 遼太郎	修猷館	九州大学・工学部Ⅰ群

特定枠大学院生

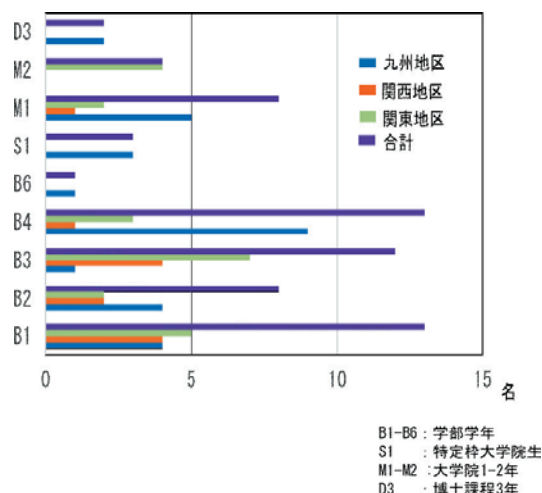
氏 名	大 学 院
高 岡 祐 太	九州大学大学院工学府応用化学専攻
藤 本 茉 奈	九州大学大学院薬学府創薬科学専攻
松 井 優 樹	九州大学大学院生物資源環境科学府

大学院生（学部時より継続支給）

氏 名	出身大学	大 学 院
小 河 義 典	京都大学	京都大学大学院 文学研究科文献文科学専攻
小山田 莉 緒	九州大学	九州大学大学院 工学府土木工学専攻
高 山 竜之介	九州大学	九州大学大学院 理学府地球惑星科学専攻
東 遼 晴	長岡技術科学大学	長岡技術科学大学院 機械創造工学専攻
山 根 奏太郎	東京工業大学	東京工業大学大学院 理学院化学系

参考：令和4年4月1日現在、地区ごとの黒田奨学生数（休学などの学生を除く）は下記の表およびグラフのようになります。

		九州地区	関西地区	関東地区	全奨学生
博士課程	D3	2	0	0	2
修士課程	M2	0	0	4	4
	M1	5	1	2	8
	S1	3	0	0	3
	計	10	1	6	14
学部生	B6	1	0	0	1
	B4	9	1	3	13
	B3	1	4	7	12
	B2	4	2	2	8
	B1	4	4	5	13
	計	19	11	17	47
計		26	12	23	61



●令和3年度 関東地区研修会 令和3年12月4-5日

令和3年度研修会の最後となる関東地区研修会発表会は令和3年12月4-5日と2日間に亘って行われました。この時点では新型コロナ感染はかなり収まっていたのですが、ホテル予約を決める8月時点では感染拡大が依然として懸念されていたためにホテル予約をキャンセルしていました。従って今回もオンラインによる研修会にならざるを得ずで、結局、令和3年度の研修会はすべてオンラインによるZOOM発表会となってしまい、致し方ないとはいえ、淋しいものがあります。

個人面談については昨年と同様に8-9月の期間に済ませており、発表会のみでの研修会です。

発表会は初日、2日目とも12名ずつの奨学生に受け持ち時間20分(発表10分、質疑応答10分)で発表してもらい、11時から16時半頃まで、活発な質疑応答もあって充実した発表会でした。しかしながら、全奨学生に参加の呼びかけをしたにも関わらず、九州地区、関西地区からの奨学生参加が全くなかったことは非常に残念に思います。

それでも2日目の発表会に総裁の黒田長高様に参加して戴いたことは非常に嬉しいサプライジングでした。パソコンの不具合で拝顔できませんでしたが元気なお声での挨拶を頂戴し、参加者全員の緊張度が増したことでしょうし、士気高揚に繋がったことでしょう。新入奨学生は長高様にはまだお目通りが叶っていないようですが、お逢いできるのもそう遠くないことを願いながら、もうしばらく待っていただきます。

長高様、ありがとうございました。

さて、関東地区の発表は全体としては理系が中心で、中でも数式がふんだんに取り込まれた物理数学系に加え、ITやプログラミング関係が多いのは関東地区研修会の特徴でもあるようです。詳細な内容は発表抄録や、続いて紹介する奨学生からの感想文でお分かりになるかと思います。

今回、初めて発表する新入奨学生は4名、2回目の発表が2年生の7名でした。上級生に比べると内容はそれほど専門的でないのは当然のことですが、スライド作成や発表練習を何度も繰り返し行い、発表準備に相当の時間を費やしたことが伺えるような発表でした。発表に対する姿勢が真摯であることを実感したのが教育指導担当としても嬉しい感想です。

また、今回はフィンランドに留学している東京外国語大学4年の藤井奨学生が現地から参加してくれました。発表会開始の午前11時は現地では朝の4時ということで、眠さを我慢(?)しての参加、お疲れさまでした。

参加役員：伊達理事長、田中事務局長、岡本常任理事(教育指導担当)、渡邊理事(教育指導担当)、小田部理事(教育指導担当)、野中理事(関西地区担当理事)

(岡本)

研修会に参加しての感想

一橋大学法学部3年 加治 遼

今回は私にとって2度目の関東地区研修会となりました。去年は自分の発表のことで頭がいっぱいでしたが、今年はしっかり準備をして発表内容に自信もあったので余裕をもって他の奨学生の発表を聞くことができました。私は法学部ですが関東地区の奨学生は理系の方が圧倒的に多いので、自分にとって普段の大学生活では聞かない内容がメインでした。とはいえ、松藤先輩の「脱炭素時代の電力需給バランスの技術と制度」や山根先輩の「2021年ノーベル化学賞 解説」など、前提知識が全くない状態でも概要はあらかじめ理解できたので、先輩方の工夫にとっても感心しました。研修会後に再度先輩方のスライドを見直しましたが、1つのスライドをシンプルにしていること、半分以上のスライドで図や写真、グラフが活用されていることに気づきました。私は来年から大学でゼミに属することになり、プレゼンテーションの機会は増えてくると思うので、今回学んだ工夫は積極的に真似していききたいと思います。

一方で、稲富先輩の「破壊的イノベーションを実現する新しいアイデアの創出法」が大学で学習した経営学の内容と関連するなど、自分の学んだ授業と関連する発表もいくつかあり、その分野に関してさらに詳細な知識を得ることができました。先の稲富先輩の発表の例で言えば、授業では持続的イノベーションと破壊的イノベーション両方の基礎的な概要を学びましたが、発表では後者を深掘して「バイアスブレイク」などいくつかの詳しい手法を知ることができました。

私の発表は民法上の2つの制度の競合に関する内容でした。発表に際して間違いのないよう多くの判例集・教科書を参照し、混乱を避けるために専門用語を使うことを避けつつ、スライドの情報量を限りなく減らしました。そのため法律に馴染みのない方でも理解しやすい発表だったと自負していますが、小田部先生が指摘してくださったようにもう少しスライドの方に工夫を入れるべきでした。先述した通り図を活用することもそうですが松本先輩のように自分の映像をスライドに入れるのも一手かなと思いました。

また、今回の研修会を通して民法の面白さに気づくことができました。今までは民法に対して若干苦手なイメージがありましたが、発表の準備をしていく中で、条文一つ一つに様々な論点があることや、民法改正の変更点とその背景などを学び、気が付くと深い海に潜っていくように、どんどん発表に収まりきれないほど多くの論点について考察していました。

今回の研修会は去年よりはるかに得るものが多かったです。来年の研修会ではどんな面白い発表に出会えるかととても楽しみです。私自身もさらに良い発表ができるよう、また1年頑張っていきたいと思います。

東京大学文科一類3年 蒲池 海斗

研修会での発表は私にとって2度目でしたが、未だに慣れない、緊張感を伴うものでした。当日までの練習では、何度も嘔んでしまうことや、制限時間を2分以上超えることがあり、果たして本番十分な発表ができるのだろうかと不安が募りました。何十回と練習を繰り返して迎えた本番では、発表内容の一部が古いものであったり、認識の誤りがあつたりして、自分の詰めの甘さを痛感しました。練習を重ねるのはよいけれども、その過程で自分の認識が歪んでいないか、参考にした文献は最新の状況と適合しているかも入念にチェックすべき、ということが今後の発表へ向けた改善点です。補足・訂正をしていただいた岡本先生には深く感謝申し上げます。

他の奨学生の発表はどれも興味深いものでした。大学で専門分野が細分化されると、自然と自分の専門分野の周辺までに日頃触れる知識が限られてしまいます。その点で、普段得ることのできない分野の、高等教育レベルの最新の知見に触れられるこの研修会は大変貴重なものでした。特に、ニューラルネットワークなどは今後の社会を生きる上で知っておくべき知識であり、自らの分野でも利用されるものであるため、概要だけでなくその構造や関連した問題も知ることができたことは大きな経験となりました。また、他の奨学生の皆さんの対応できる分野の広さには驚くばかりです。皆さんが質問をされている様子を通して、自分もより広い知見を持たねばならないな、と改めて実感させられました。

さらに、未だ自分で研究し発表を行った経験のない私にとっては、研究や発表の事例に多く触れることができる有意義な場でもありました。後期過程で学部に進学したばかりのため、自分で実験を行い、その結果を研修会で発表するのは来年が初となります。奨学生の先輩方の発表を参考に、比肩するレベルとなるように、今回の改善点を生かしつつ来年の発表に臨もうと思います。

最後に、自分の発表について研鑽をさせていただけるとともに、知見を広げ、発表方法など今後につながることを学ぶ貴重な体験をさせていただいたことに、厚く御礼申し上げます。

東京大学理科一類3年 松田 仁

今年で2回目の参加となる関東地区研修会は、昨年同様学ぶものが非常に多いものだった。この研修会の魅力は「自分の専門分野以外のプレゼンを聞くことができる」ことだと私は考えている。日頃の生活において自分から触れる情報はどうしても自らの趣味嗜好に関わるものが多くなるし、大学で議論する内容も専攻している領域にすることが主である。しかしこの研修会では、普段調べないような内容について、その分野を専攻している方からの発表を聞き、知見を広げることができる。このような点において、研修会は非常に有意義なものだと感じた。

一日目では、真野さんの帰宅困難者についての発表は、この研修会に参加しなければ知りもしないような内容であったし、発表後の質疑応答では行政の情報開示のあり方について考えさせられた。また、渡邊さんが発表された国際法学と国際関係学は、物理系の学科へ進学する私とは遠い学問だと思っていたが、この発表でそれらがどのようなものなのかを理解することができた。

研修会の魅力はこれだけではない。「自分の専門分野以外のプレゼンを聞くことができる」ということは、「自分の専門分野を、その分野に精通していない人にプレゼンしなければならない」ということでもある。自分の研究内容を専門知識がなくても分かりやすく伝えることは、今後研究に取り組んでいく上でも、社会に出て働く上でも重要なスキルだ。研修会では、自らの発表、そして他の奨学生の発表を通してプレゼンスキルを磨くことができる。奨学生の皆さんの発表は、スライド、伝え方ともに素晴らしく、私の発表に足りない部分があるのかを理解することができた。

一日目では特に井手さんの発表から、スライドの一部を拡大して見せるアニメーションや、スライド間の切り替え方、質問を予想したスライド作りを学ぶことができた。私のプレゼンのスライドはアニメーション等を用いていなかったし、質問を想定して回答を考えておくこともできていなかった。次回の研修会での資料を作る上で参考にしたい。

研修会は「知識を受け取る」、「知識を伝える」という二つの面で成長する機会である。今後の研修会においても、自分を成長させるという心持ちで参加していきたい。また、私が先輩から学ぶものを得たように、一年生や来年、再来年に黒田奨学会に加わる後輩の手本にされるべく精進するつもりである。次回の研修会はぜひオフラインで開催できるように願っている。

東京工業大学工学院経営工学系3年 實淵 有佑

今回は私にとって2回目の研修会でしたが、今回もとても学びの多い経験をさせていただきました。

まず、私個人の反省は、発表内容に対する考察が足りていなかったことです。私は経営工学系という学科に所属しており、経営工学とは何かが分からない方も多いと考えたので、大学の授業で履修した科目の中で自分が興味を持っており、かつ皆さんに面白いと思っていただけたと思った「ゲーム理論」をテーマに選びました。しかし、今回スライドに紹介した理論をどううまく説明し、どう理解していただくかに必死になり、結果から何が読み取れるかなどの、自分自身で考察を深めようとするのを怠ってしまいました。その結果、幹部の方々や先輩方からの質問のほとんどに答えることができませんでした。今後研究に取り組むうえで一番大事なところを疎かにしてしまったと、とても反省しています。経営工学は特に、社会問題を数理的にモデル化して、その理論を実社会に活かしていく学問なので、理論にどういう意味があるのかと考察を繰り返し、ただの理論で終わらせないという意識を強く持とうと思いました。この経験を必ず今後の糧にします。

また、他の奨学生の皆さんの発表を聴いて、改めて皆さんの発表レベル、研究意識の高さを実感しました。自身の専門分野に対する深い研究、考察が含まれていて、かつ知識のない聞き手にも分かりやすい、目指すべきプレゼンテーションをたくさん目の当たりにして、私もこのような発表をしたいと強く思いました。最も参考になったと感じたことは、理系の方の発表でも数式を書いたスライドや数式の説明が少なかったことです。私は、数式を追うことで理論を理解してもらおうとしていましたが、他の理系の方の発表では、数式は重要なものだけを書き、数式の説明よりもグラフや表などの説明に時間をかけ、視覚的に理解しやすいようにしている発表が多いように思いました。もちろん例外として、数学や物理専攻の方などは数式展開を重視するのは普通だと思いますが、少なくとも私の専攻する経営工学では、数式の説明よりもその後の応用先などに力を入れた方が、分かりやすい発表になったかなと感じました。

毎年、このようなプレゼンテーションをする機会、そしてレベルの高い奨学生の方々から刺激をもらえる機会を作っていただき、とてもありがたいと思っています。次の機会ではさらに分かりやすく、面白く、深いプレゼンテーションをして、私も皆さんに良い刺激を与えられるように、勉学に励みたいと思います。

近 況 報 告

● 令和3年3月京都大学大学院修了・田中龍一氏から近況報告が送られてきました。

田中龍一氏は現在、独立行政法人国立文化財機構、奈良文化財研究所・都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）考古第三研究室の研究員として勤務されています。

大変ご無沙汰しております。昨年度卒業させていただきました、田中龍一です。先日の瑞藤会総会には出席が叶わず、大変残念であり、また、申し訳ありませんでした。

この一年間、奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）で勤務しておりましたが、4月1日より、都城発掘調査部（平城地区）へと異動することになりました。

さて、近況ですが、約半年を現場で過ごした一年でした。今年度は、7-9月に奈良市の興福寺、1-3月に明日香村の石神遺跡での発掘調査に従事しました。

研修として参加した興福寺の発掘調査では、国宝の東金堂と五重塔を囲っていた回廊と門の痕跡を確認しました。

特に、火災による焼土やそれにとまなう土器や瓦、建物基壇の改修の跡から、平家による南都焼き討ちとその後の復興の実態が判明したのは、大きな成果でした。



また、つい先日まで調査をおこなっていた石神遺跡は、律令国家成立の中心であった飛鳥に営まれた迎賓館であったと考えられています。

世界遺産を目指す飛鳥・藤原の構成資産に含まれる水落遺跡と一体の施設であったと想定され、今回の調査では長大な堀と溝の跡を確認しました。



興福寺東金堂院の門と回廊の発掘調査（平城第640 次調査）の現地見学会のご報告
-なぶんけんブログ
(nabunken.go.jp) より

石神遺跡 日本国創成のとき～飛鳥を翔た女性たち～
飛鳥女史紀行 (asuka-japan-heritage.jp) より

また個人研究の面では、小規模ではありますが科学研究費に採択されました。

タイトル「平安京・大和国における瓦生産・流通構造—9-12世紀を中心に」2,340千円の研究費（岡本注釈）

最近では、デジタルカメラで撮影した写真を解析して、瓦の3Dモデルを作成する技術（SfM : Structure from Motion）を用いた研究を進めています。

新年度からは、フィールドを移して平城宮・京の発掘調査に従事することになります。二年目の若手は、総担当として初めて現場を指揮することになっており、身が引き締まる思いです。

掘り出された遺跡や遺物は、研究することによって初めて、いつ・どこで・だれが・何のために作ったのかがわかります。この作業を積み重ねていくことで、新たな歴史像の構築や文化財の価値を高

めていくことができ、社会貢献につなげることができると考えています。

まだまだ未熟者ではありますが、文化財と社会貢献を常に考えながら精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

今後の益々のご活躍が期待されます！（岡本）

● フィンランドに留学中の藤井かのん奨学生 近況報告

春学期の最終タームに突入し、多くの授業で最終課題や試験に向けて動き始めています。通年で受講していた「Project Work」という授業では、実際に小学校などで活動を実践しなければならないのですが、私たちのグループは活動先を見つけるのに苦労しました。やっと来週から幼稚園で7日間に渡り活動できる事になったので、現在は計画の最終調整に取り掛かっています。

「Language in Society」という授業は、試験や課題は無く、成績はLearning Diaryだけで決められるというものでした。Learning Diary自体、私は書いたことが無かったため、何を書けば良いか分からず、試行錯誤した結果Wordファイル22ページ分のものが出来上がりました。この授業のように、評価の方法が今までとは大きく異なる授業が多く、何とか手探りで進めています。

1月から保育園でさせてもらっていた教育実習のような活動も3月末で終了しました。最初は言葉の壁もあり、子どもとのコミュニケーションも難しかったですが、徐々に私も子どもたちも慣れて行き、簡単なフィンランド語で話せるようになりました。保護者の方たちも一緒に折り紙を作った事も思い出深いです。子どもたちの可愛さに癒されながら、フィンランドの幼児教育を学ぶ事ができ、とても良い経験になりました。

また今週はイースターという事で、友人とイースターエッグを作りました。下の写真の中には、ポケモンのモンスターボールやドラえもんなどもありますが、これは私が描いたものではなく友人たちが描いたものです。意外なところで日本の文化が浸透している事を実感しました。

私は最近、パンやお菓子作りに熱中しています。現在のフィンランドは、日中は0℃を上回り、夜間は下回るような状態のため、道がスケートリンクのように凍っています。そのため、どうしても外出する気にならず（とは言え、毎日2時間散歩してはいますが）、家の中でできる事を楽しんでいます。そして今では毎日のようにパンやお菓子を作り、友人と交換しています。パン作りは奥が深く、とても楽しいです。

このような穏やかな日常を送っているため、私自身全く実感が湧いていませんが、ロシアとの関係は悪化しているように思います。実際、今月の13日にフィンランドの首相が「NATOへの加盟の是非を数週間以内に判断する」と宣言しました。それと同時に、（真偽は定かではありませんが）ロシアが軍事設備をフィンランド国境に移動させている事が報じられました。自分の身は自分で守りながら、フィンランドだけでなくウクライナやロシアの人々も安心して生活できるようにするために、自分が貢献できる事を常に考えていようと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



公益財団法人黒田奨学会に対する寄付御礼 および 重ねてのお願い

公益財団法人黒田奨学会は、旧筑前藩主・黒田家から出資された基金によって1915年より107年間にわたり、旧筑前領内出身の学生に対して奨学金の給付を続けてまいりました。

奨学金給付の原資は、黒田家から寄贈された基金及び土地の資産運用益とOB・OG、黒田家関係者、当奨学会への理解者からの寄付金により成り立っており、頂いた寄付金は奨学会の基本財産に繰り入れて基本財産充実を図りながら、その運用益を奨学生の奨学金に充ててまいりました。

公益財団法人にとっては、個人からの寄付は一定条件のもと、「個人寄付者の税額控除認定法人」として、所得控除または税額控除（税金分から控除）のどちらかを選択できることとなり、非常に有益なものとなるのですが、この一定条件として、『三千円以上の寄付者が、過去5年にわたり平均して70名以上いる事』が求められています。つまり、寄付される方の述べ総数が5年間で350名以上であり、その後も70名以上の方が毎年連続して寄付して頂ければ税控除が適用され、さらには寄付された方に対しても税控除特典*注が適用されることになっています。

平成30年度はお陰様で120名の方々から計96万7千円の御寄付を頂くことができました。

上記の税控除の認定申請の条件が整ったことから、政府に対して「個人寄付者の税額控除認定法人」の申請を行った結果、**令和元年10月8日付けで無事に認可を取得することができました。これによって令和6年10月7日までは税控除認定法人の資格を維持することができます。**

ちなみに、令和3年度においては74名の方々から計91万2千円近くの御寄付を頂いております。

黒田奨学会の理念に御賛同頂き、これまで、奨学金の充実のためにご寄付戴きました黒田奨学会関係者の皆様には心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

引き続き、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

なお、申込書は会報とじ込みのもの、またはHPよりダウンロードできます。

黒田奨学会出身の郷土の若者達が将来、世界や日本の社会で広く活躍する為の投資とお考え頂き、今後も募集への御理解と御協力を賜りますよう、重ねてお願いする次第です。

公益財団法人・黒田奨学会理事長 伊達 健太郎

*注

公益財団法人である当奨学会への個人寄付は、寄付金額から2,000円を差し引いた額が確定申告で「所得控除」として扱われますが、「税額控除認定法人」に認可されますと、確定申告では「税額控除」か「所得控除」かのいずれかを選択することができます。一般的には、「税額控除(40%)」の方が「所得控除(10-45%)」より控除額(税金の還付額)が多くなります。また、個人寄付者が福岡県在住の場合は住民税(県民税・市町村税)においても、寄付額から2,000円を差し引いた額の10%の控除が受けられますので、場合によっては所得税と住民税を合わせると、個人寄付額の最大 50% 弱の還付額を受け取ることが可能となります。(ただし、市民税が控除対象とならない市もあります。)

令和3年度奨学会基金への寄贈者（敬称略、順不同）

令和3年10月1日～令和4年3月31日 （ ）は黒田奨学生OB、OGの卒業年

奈良崎 修二 (S55)	佐田 裕	山根 奏太朗 (R4)
佐藤 克二 (H24)	久保 健二	真野 いずみ (R4)
仲野 健剛	菊池 武之	小石 健仁 (R4)
仲野 健太郎	野崎 雄介	東 遼 晴 (R4)
東寺 裕康	小倉 健志	龍 正 一郎 (R4)
田中 俊雄	谷 耕輔	原 口 義基 (R4)
佐藤 尚宏	井ノ口 基浩	稲 富 嘉博 (R4)
佐田 孝史	井ノ口 正浩	
竹下 政雄	小河 義典 (R4)	
井原 恒治	松本 凌佳 (R4)	
濱地 勝弘	小山田 莉緒 (R4)	
瀬口 友樹 (H28)	小幡 ナシム (R4)	
		その他 匿名希望 10名

令和4年度 黒田奨学会行事予定

(令和4年3月21日現在)

月	日	曜日	時間	内 容
4	1	金		福岡舞鶴スクエア竣工式
	8	金		4月分奨学金給付
	15	金		「進級を証明できる書類」提出締切 (※2年生以上、締切厳守)
	17	日		光雲神社春季大祭
5	3	火		博多どんたく (3～4日) 長高様来福 (福岡城市民の会主催歓迎会)
	10	火		5月分奨学金給付
	13	金	18:00	令和3年度決算 会計監査
			19:00	定例理事会 (議題: 決算報告)
6	4	土	13:00	(前期) 第1回九州地区研修会・面談
	10	金		6月分奨学金給付
				2023年度新奨学生 (特別・一般) 募集要項願書発送
			19:00	定例評議員会 (議題: 決算報告)
7	17	金		瑞藤会会報92号発行
	8	金		7月分奨学金給付
	16	土	13:00	(前期) 第2回九州地区研修会・面談
8	4	木	11:00	長政公401回忌法要 (崇福寺)
	10	水		8月分奨学金給付
	12	金		事務局夏季休暇 (12～16日)
9	3	土		関西地区研修会 (大阪ガーデンパレス)
	9	金		9月分奨学金給付
	12	月		前期成績表・報告書・GPA提出 ※9/12受付開始～9/26締切厳守
	16	金		2023年度九大・九工大へ大学院特定枠奨学生募集案内発送
	24	土		2023年度新奨学生 (特別募集) 願書受付締切 (必着)
10	2	日		光雲神社秋季大祭
	7	金		10月分奨学金給付
			19:00	2023年度新奨学生 (特別募集) 書類選考会
	8	土	13:00	(後期) 第1回九州地区研修会・面談
	15	土	13:00	2023年度新奨学生 (特別募集) 面接選考会
			17:00	理事会 (議題: 奨学生選考)
11	19	水		2023年度新奨学生 (特別募集) 可否通知発送
	10	木		11月分奨学金給付
	12	土	13:00	(後期) 第2回九州地区研修会・面談
12	3	土		関東地区研修会 (3～4日、グランドヒル市ヶ谷)
	9	金		12月分奨学金給付
	14	水		瑞藤会会報93号発行
	28	水		事務局冬季休暇 (28～1/5日)
2023 1	6	金		事務局業務開始日
	10	火		1月分奨学金給付
	20	金		2023年度九大・九工大 大学院特定枠学内申請締切
	27	金		2023年度新奨学生 (一般募集) 願書受付締切 (必着)
2	3	金	19:00	2023年度新奨学生 (一般募集) 書類選考会
	10	金		2月分奨学金給付
				2023年度新奨学生 (一般募集) 書類選考結果発送
	11	土/祭		建国記念の日 忠之・光之・治高公法要 (東長寺) 忠之公371回忌
3	13	月		第107期瑞藤会総会案内発送
	4	土	9:00	2023年度新奨学生 (一般募集) 面接選考会
			17:00	理事会 (議題: 奨学生選考、2023年度予算)
	6	月		2023年度新奨学生 (一般募集) 可否通知発送
	10	金		3月分奨学金給付
	11	土		2023年度九大・九工大 大学院特定枠 書類・面接選考
	17	金		後期成績表・報告書・GPA提出 ※3/17受付開始～3/24締切厳守
	20	月		如水公420回忌法要 (崇福寺)
	21	火/祭	13:00	2023年度奨学生総会・入学式
			17:30	瑞藤会総会・卒業記念会

編集後記

瑞藤会会報偶数号は黒田長高様の巻頭言に始まり、卒業・修了生の感謝の辞、新入生の挨拶が満載されています。教育指導担当でもある編集責任者の指導が浸透したためか（?）、皆さんからの原稿も期限内にスムーズに集まりました。メールやり取りや編集に割かれる時間が号を重ねることに減少することは非常に嬉しいことです。

黒田奨学会HPにも原稿歓迎のメッセージを出しましたが、OBOGの皆様からの情報が全くない中、瑞藤会OB・田中龍一氏からの近況報告は会報に厚みを増してくれました。

田中氏の学生時代の研修会時での発表様子や表情を思い出し、改めて彼の考古学への熱意を感じた次第です。益々の御活躍を期待したいものです。

奨学生からは毎月、近況報告をメールで届けてもらっています。以前に比べると近況報告の内容も勉強以外に日常生活での出来事や食事、自炊状況、友人たちとの交流など、報告の幅が広がっており、写真等を添付してくれる学生も増えています。今号では「謝辞」中にそれら写真を挿入してみました。次号では昨年末発行の91号と同じように、奨学生の毎月の近況報告の中からいくつかピックアップして紹介したいと思います。誰に的矢が当たるかは乞うご期待！です。

トピックスでもお知らせしたようにHPがリニューアルされました。まだ開かれていない方も多いかと思います。是非一度入ってみてください。また、現役の奨学生だけでなく、OB・OGの皆様方からの近況報告やメッセージなど頂ければ嬉しい限りです。

世界では、コロナ感染は依然として拡大中であり、また、ロシアのウクライナ軍事侵攻は3か月経っても終戦の兆しもなく、平穏無事に安らかに暮らすことさえ難しくなっている昨今、ストレスが溜まるばかりです。ストレスの影響で、通常は身体の中でおとなしくしているヘルペス菌が活動し、それによって带状疱疹にかかる人も増えているとか。

私事になりますが、後期高齢者である私もストレス下では特に生理機能の衰えを感じ、病院で診察してもらう機会も増えてきました。「加齢」に贖うことなく自然の成り行きと素直に受け入れ、無理することなく毎日を過ごすのが一番かと、自分を納得させている今日この頃です。

ということで、令和4年度の瑞藤会会報は何とか期限内に発行することができました。ひと安心です！

梅雨入りを前に大雨洪水災害がでないことを祈りながら・・・

令和4年5月末
編集責任者・岡本順子（常任理事）

黒田奨学会研修会・発表抄録集

関東地区研修会 令和3年12月4-5日

1. メモリ内計算プロセッサの汎用性向上のための再学習手法

東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻 修士1年
吉清 泰生

供給電力に限られるエッジデバイス上でニューラルネットワークの演算を行うため、メモリ内計算という技術が注目されている。一方でメモリ内計算プロセッサは、書き込まれた1つのネットワークしか使用できず、環境の変化や使用用途の変化に対応できない。私の研究では、エッジデバイス上で再学習を行うことでネットワークを部分的に変更する手法を考案し、その実用性を検証した。結果は一定の汎用性を獲得できたが、実用的な精度には至らなかった。

2. 量子多体問題と計算物理学

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻 修士1年
塚本 恭平

身の回りの物質や分子などは全て多体系だと言っても過言ではありません。そのため物理学において多体系の取り扱いには避けては通れない問題です。多体問題には古典多体問題と量子多体問題がありますが、特に物質の性質を決めるのに重要なのは量子多体問題です。量子多体問題の扱いは計算コストの問題から非常に難しく、様々なアプローチが存在します。今回はそれらについて、最近の研究も交えながら簡単に概観をお話しさせていただこうと思います。

3. 鉄道利用者数から見た帰宅困難者問題 ―横浜市を事例として―

東京大学教養学部学際科学科地理空間コース4年
真野 いずみ

東日本大震災では、横浜駅周辺だけで3万人もの帰宅困難者が発生した一方、横浜市内全域では帰宅困難者発生リスクを抱える地域が複数存在した。そこで市内の主要駅における鉄道利用者に着目して、大規模地震発生時の駅滞留者数や市内の帰宅困難者一時滞在施設での収容人数を推計し、両者を比較しながら駅ごとの特徴を分析した。今回の発表では市全体の推計結果を概観し、こういった地域で相対的に大きな被害が想定されるのか地理的要素を考慮しつつ検討する。

4. 20世紀アメリカ文学における男性性と女性性の研究

東京大学文学部人文学科英語英米文学専修課程4年
吉安 晴馬

1920年代、フィッツジェラルドやヘミングウェイは「フラッパー」の流行などを始めとする女性の性の自由を作品中で頻繁に取り上げている。大恐慌や第二次世界大戦頃における社会風刺をする作品や、その後の1950年代はビートジェネレーションの作品が流行する。1960年代、レイモンド・カーヴァーやシルヴィア・プラスなどによる作品では結婚生活や社会進出に苦しむ女性が注目され、人気を集める。今回はこれらアメリカ文学における性の描写から、1920年代と1960年代の男性性と女性性を比較する。

5. 自律制御の安全装置への適用に関する考察 ―自走自律搬送台車を例とした検討―

長岡技術科学大学機械創造工学課程4年
東 遼晴

現代の産業において自律制御技術の用途が広がっており、安全装置への適用も視野に入っている。例えば、搬送台車である。しかし、現代では自律制御技術の使用率は低いため、使う場合の注意点が明確でなく、自律制御を行う搬送台車が新たな危険を内在している可能性があり得る。そこで、話し合いでの検討法及び自動車の自動運転での検討法を採用して、自律制御を行う搬送台車において新たな危険源を評価し、追加すべき安全対策を検討した。

6. 森鷗外『花子』の紹介と解釈

東京大学文学部人文学科日本語日本文学専修3年
井手 那幹

現在私が授業で読解に取り組んでいる森鷗外『花子』は、彫刻家ロダンと、日本人として唯一そのモデルになった女優花子を題材とした超短編小説です（青空文庫で読めます）。本作の執筆にあたり、鷗外は様々な伝記的事実を利用していますが、一方で彼が創作した部分もありました。研修会では、作品のあらすじを紹介した後、伝記的事実と小説との相違に着目しながら鷗外の表現意図を探り、『花子』の解釈に簡単に踏み込んでいこうと思います。

7. リーダブルコード

慶應義塾大学理工学部電気情報工学科2年
佐々木 綾太

プログラミングのソースコードは単に処理時間の早いコードが「優れたコード」という訳ではない。しかし、「優れたコード」を書くために意識すべきことはただ一つ、「人が読んで理解しやすいコード」を書くことだ。このたった一つのことを意識するだけで、処理時間やアルゴリズム等、あらゆる観点から「優れたコード」を書くことができる。今回は私が最近読んで感動した本から学べることについて、ここ数カ月でいくつかのアプリとWordpressのテーマを作成した私の経験も交え、発表する。

8. 連立方程式を解く

東京大学教養学部理科Ⅰ類（工学部物理工学科内定）2年
松田 仁

連立方程式は様々な分野に登場します。変数が5個程度ならば手計算でもなんとかできますが、変数が100個や1000個になると人力で解くのはほぼ不可能です。そこで、コンピューターを用いて解を得ることを考えましょう。しかし、

工夫せずに実装すると大きな誤差が生じてしまったり、計算に膨大な時間がかかったりします。これらを防ぐ手法を「数値解析」という講義の中で扱ったので、文系の方でも理解できるように噛み砕きつつ発表します。

9. うつ病の要因と治療法

東京大学文科一類2年
蒲池 海斗

うつ病に対する認識は近年改善しつつあるように思えますが、まだ世間一般には「精神論」を語ったり、精神科を受診することをよく思わなかったりする方がいるようにも思えます。うつ病の要因には心理的なものだけでなく、脳神経の異常などの生物学的要因も含まれており、うつ病はれっきとした「病気」の一つです。今回はうつ病の要因のうち、生物学的側面と心理学的側面を説明するとともに、各要因への治療法についても紹介いたします。

10. 国際法学と国際関係学の関係を問い直す ― 2学問の乖離と私の理想 ―

東京大学文科一類2年
渡邊 蒼生

私は大学で法学を専攻しています。その中でも特に関心分野である国際法学と国際関係学に力を入れて学習しています。これら2つの学問はグローバル化した現代国際社会という共通の研究対象を持っているにも関わらず、その研究手法や学問的帰結について大きな相違が見られることが分かりました。当日の発表では、相違の中身やその背景に加え、私が思う2学問のあるべき関係についてもお話しします。私たちが現に生きる国際社会を理解する一助となるような発表となるよう心がけます。

11. ICカードの反応距離

東京大学理科一類1年
仲西 優貴

日常的にICカードが反応しないことがあり、その理由を知るために、厚紙にスリットを開けた装置を用いて自動販売機のICカードリーダーへの反応を調べた。実験ではICカードとリーダーの間に紙やアルミ箔、磁気防止シートなどを挟んで反応距離の変化を調べた結果、紙の影響は小さい一方、電磁波を遮断するアルミ箔や磁気防止シートではICカードは反応しなかった。加えて、2枚重ねたICカードでは、必ず上側のICカードが反応するという疑問に対しても考察を加えた。

12. 複相鋼における塑性変形挙動

東京大学理科一類1年
山本 颯真

鉄と炭素の合金からなる鋼は低温で脆性破壊するため、低温環境での船舶破損など、重大な事故となる可能性がある。この研究では鋼の低温環境での変形メカニズムを知るために、マルテンサイト50%、ベイナイト50%の複相鋼を使用し、室温と低温での変形を比較した。低温下における衝撃試験では吸収エネルギーが高く、引張試験ではより大きい応力で変形が始まったが、その伸びは室温と同じであったことから、低温でもベイナイトの寄与により変形能がより良くなることが分かった。

13. ニューラルネットワークを用いた単語間含意判定モデルの提案

東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻 修士2年
佐藤 尚弥

自然言語処理技術の発達に伴い、文献等からの情報抽出が注目される一方、得られた情報を構造化して知見を抽出する技術に関しては研究が遅れている。特に単語間の意味的な包含関係を判定するタスクでは、学習データと評価データの間に重複が存在し、汎化性能に大きな課題がある。そこで、ニューラルネットワークを用いた含意判定モデルと汎化性能評価のための新しいデータセットを作製した結果、高い汎化性能を発揮し、実用性を有することを確認した。

14. 破壊的イノベーションの実現に向けた新しいアイデア

東京大学大学院工学系研究科社会基盤専攻 修士1年
稲富 翔伍

私は東大発のイノベーション教育プログラム「i.school」でも活動を行っている。VUCA（先行き不透明で将来の予測が困難）の時代においては、これまでにない価値を生み出す「破壊的イノベーション」を実現するようなアイデアを考える方法論（バイアスブレイク・アナロジー・プロトタイプングなど）の習得が重要である。方法論の詳細やチームでの活動の留意点について、私が体験した実際のワークショップの過程とそこで生み出されたアイデアを紹介しながら説明する。

15. 脱炭素時代の電力需給バランスの技術と制度

東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻 修士1年
松藤 圭亮

脱炭素時代には、発電量が気象条件により小刻みに変動するようになり、電力需給バランスの指標である電力周波数が不安定化するという課題が生じる。そこで、周波数の変動に応じて膨大な数の電源や電気機器の発電量（または消費量）を高速に制御する技術と、この技術を収益化するための市場制度が重要となる。発表では、電力需給バランスの領域で世界をリードし、わが国も制度設計上参考としている英国の技術と制度を分析する。

16. 電子コミックの急成長と企業戦略

東京大学経済学部4年
松本 凌佳

ここ数年のコミック市場では、漫画雑誌・単行本という、縮小を続ける紙媒体から電子コミックへの急激な移行が発生した結果、2020年には市場規模の逆転が発生したと推計されている。今回の発表では急成長する電子コミック市場の

中でコミックアプリに注目し、アプリとそのコンテンツ、ダウンロード数などの統計や収益構造について紹介する。その上で運営企業の直近の動向を見ていくことで、各社の今後の成長戦略を探っていく。

17. 重力場の大きさが燃焼挙動に与える影響についての研究

東京大学工学部航空宇宙工学科4年
井原 渉

有人宇宙活動は近年再び本格化してきており、その安全性を確保するために微小または部分重力空間での防火・防災について研究が進められている。微小重力空間では通常とは異なる燃焼挙動が見られることが知られているが、パラメータとして重力加速度を連続的に変化させた場合に燃焼の諸現象にどのような影響が出るかについては多くが未解明であり、モデルづくりと実証実験が必要である。今回は私が卒業研究で取り組んだ過重力装置を用いた実験について、上記のような研究背景を踏まえながら発表していく。

18. 2021年ノーベル化学賞解説 ― 有機触媒とは？ ―

東京工業大学理学院化学系4年
山根 奏太郎

日本の先生方の受賞歴も多いノーベル化学賞ですが、今年度は、リスト先生、マクミラン先生が有機触媒という、現在の有機化学を語る上では欠かせないものとなったテーマで受賞されました。私は現在、有機合成の研究室に所属しております。そこで今回、自分自身の勉強も兼ねて、今年度のノーベル化学賞について解説したいと思います。有機化学の基礎知識なども交えつつ話していくので、少しでも有機触媒がどのようなものなのか、を感じてもらえたら幸いです。

19. 両刃の剣「ミトコンドリア」

東京農工大学工学部生命工学科3年
朽網 桃香

細胞内小器官であるミトコンドリアは私たちが吸入した酸素を使って主にエネルギーの生産を行う器官であり、生命維持に役立っています。しかしながら、その時に発生する活性酸素は良い役割を持ちつつも活性酸素自身の反応性の高さにより、時には細胞自身を損傷します。さらに活性酸素によるダメージは蓄積された結果、重大な疾患として現れます。今回の発表ではミトコンドリアと活性酸素の関係について紹介させていただきます。

20. 群とフーリエ変換

東京大学前期教養学部2年
大串 裕紀

工学等の幅広い分野で使われているフーリエ級数、変換は実数上の関数を三角関数に分解するというものです。これを群論の視点から捉えなおすことで、実数上の関数からより一般の空間上の関数でもフーリエ変換と類似した分解ができます。具体的には群上の関数は、既約表現という三角関数に対応するもので分解できます。またウェーブレット変換などが群の表現という立場から見ると、フーリエ変換と類似したものとなることを紹介する予定です。

21. ゲーム理論を用いた最適な意思決定論

東京工業大学工学院経営工学系2年
實淵 有佑

ゲーム理論とは、経済社会における2人以上のプレイヤーによる意思決定を、数理的な方法論を用いて分析する理論である。ここでの意思決定とは、「相手がどう出るか」を考慮しながら、自分の利益を最大にする方法を選択することである。研修では、ゲーム理論の考え方を簡単に紹介した後、実際に数理手法を用いて市場の最適な価格決定を行う例を分かりやすく紹介し、理論から意思決定の最適解が求まる面白さ、ゲーム理論の有用性を伝えたいと思う。

22. 契約不適合による債務不履行責任と錯誤との関係

一橋大学法学部2年
加治 遼

スポーツカーを購入したが実際には普通の車程度のスピードしか出ない。このように売買契約の目的物に問題がある場合、民法では2つの制度（瑕疵担保責任と錯誤、平成29年の民法改正後は債務不履行責任と錯誤）のどちらが適用されるか争われてきた。今回の発表では、まず両制度の概要を簡潔に説明し、改正以前の判例・学説の主張を整理する。そして改正後の変更点を確認しながらどの主張に分があるかを考察する。

23. 民事執行による救済への疑問

慶應義塾大学法学部法律学科1年
森谷 史人

1970年代半ば、アメリカ市場への日本製車流入によってアメリカ製車の売上が行き詰まった頃、急ピッチで新車を開発したピント社は、発売直前に欠陥があることに気が付きながら、その欠陥を治す金額を考えると、事故発生後の損害賠償の方が安上がりという考えから新車を市場に出した結果、案の定、事故が起こったというフォード・ピント事件。この事件を例にとり、経済「合理的」に第一に考えれば事故発生への可能性へ繋がりがやすい日本の民事執行制度への脆さについて議論する。

24. フィンランドにおける就学前教育と「Well-being」

東京外国語大学国際社会学部4年
藤井 かのん

私は現在、フィンランドに留学している。現地の大学生と関わる中で、彼らは自身の生活や意思決定を何よりも重視している事に気づいた。この根底には、フィンランドの教育の柱である「Well-being」の思想があると考えられる。今回の発表では、幼児教育の中でも更に就学前教育（プレスクール：エシコウル）に焦点を絞り、子どもの自由を尊重しながら学びへと繋げていく取り組みを紹介する。その上で、制度の概要だけでなく実際のフィンランド人の声も参考にする。